

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立今市小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○国語科では、4年生は全国・市の平均正答率と同程度であり、5・6年生は全国・市や県の平均正答率を上回った。  
○算数科では、4・6年生は全国・市や県の平均正答率と同程度であり、5年生は全国・市の平均正答率を大きく上回った。

●国語科においては、指定された条件で文章を書く問題で、どの学年も課題が見られた。  
●算数科においては、文章題を式や図に表したり、必要な情報を選んで求め方や式を記述解答する問題に課題が見られた。また、道具を用いた操作活動や量感をつかむ経験をつませる必要がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○ほとんどの項目で、全国の平均正答率を上回るか同程度の結果であった。 ●ローマ字と、条件付き(行数、段落数、内容)作文などの「書くこと」に課題がある。	□資料を読んで自分の考えをもち、それを短くまとめて書く活動を計画的に取り組む。 □理科や社会など、各教科のまとめなどの場面で、条件を入れた文章を書く機会を日常的にもつ。
	5年	○ほとんどの項目において、全国の平均正答率を上回った。 ●条件を満たした文章を書いたり、端的に書いたりすることに若干課題がある。 ●自分の思いを正確に話したり記述したりすることに課題がある。 ●問題の読み取りが十分でなく、問われていることを正確に理解しないまま解答している。(連体・連用修飾語)	□条件付き、または端的に表す文章を書くことの経験を重ねる。 □話したり記述したりする場を捉え、自分の思いが正確に表せているかどうかを問い返すことで、言葉の選び方や表現の仕方について適切に使う意識を高めることができるようにする。 □考えながら文章を読む大切さを伝えるとともに、読み取ったことを確認する場を設ける。
	6年	○ほとんどの領域で全国・県の平均正答率を上回る結果であった。 ○「書くこと」の内容における平均正答率は、全国と同程度で、県との比較では上回った。 ●指定された条件で文章を書く問題では、全国の平均無回答率を上回るか同程度の結果であった。	□指定された条件(字数、与えられた資料から根拠を示すこと、指定された語句を使用すること)に合わせて、自分の考えをまとめる学習を積み重ねる。
算数	4年	○ほとんどの項目で、全国の平均正答率を上回るか同程度の結果であった。 ●基礎的な四則計算と、「図形」領域において正答率が高い。 ●文章題を式や図にすることに課題がある。 ●「長さ・重さ」領域で、単位換算の問題において課題がある。	□授業の中で、問題と式と図を関連付けて考え、説明する力を高めしていく。 □操作的な活動を通して、量感をつかめる経験をつませる。
	5年	○ほとんどの項目において、全国の平均正答率を大きく上回る結果であった。 ●基礎的な基本的な計算について、高い成果を収めている。 ●分度器の目盛りの読み取りに課題がある。 ●分数についての理解に課題がある。	□分度器を活用した測定について適宜振り返る時間を設け、定着を図る。 □算数における約束やきまりを正しく理解させ、問題解決の場において、正しく使っているかを確認する。
	6年	○ほとんどの項目で、全国の平均正答率を上回るか同程度の結果であった。 ●必要な情報を選んで求め方や式を解答する記述問題に課題がある。 ●「図形」領域の正答率は、全国平均を下回っている。	□文章問題は、立式した理由や式が表すものを説明する機会を増やす。 □ペアや班での対話を増やし、自分の考えを説明したり友達考えを聞いたりする機会を増やす。 □定規、分度器、コンパスなどの道具を用いた操作活動を増やし、作図の経験や「図形」に触れる経験を積ませる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○先生や友達の話をしっかり聞き、きちんとノートをとっていると感じている児童の割合が、9割を超えている。 ○「文章問題は、式や図に置き換えて考えている。」と回答している児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。 ○5年生において、算数の学習で「問題を解くときは以前解いた方法が使えるかどうか考えている。」と回答している児童の割合が、8割である。 ●答案の見直し、授業の予習や復習を行っている児童の割合が、全国平均を下回っている。 ●学習の必要感や有用感を感じている児童の割合が、全国平均と比較して下回っている。 ●日々の授業でICT機器を活用できていると感じている児童の割合が少ない。	□振り返りの視点を明示し、継続して学習後の振り返り活動を行う。 □問題を多面的に見る学習の機会を設け、自分で問題を見つけ、問題解決に取り組むことができるようにする。 □児童が必要感をもって取り組めるような単元構成や課題設定を行う。 □ICT機器を積極的に活用し、正しい情報選択の力をつけたり学習に対する興味、関心を広げたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○全体的に、全国平均と同程度のものが多い。 ○「算数のテスト勉強をする時は、大事な部分はどこかを考えて勉強している」と回答している児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。 ●勉強にパソコン(インターネットを含む)を利用していると回答した児童の割合が、全国平均を大きく下回っている。 ●国語において「返された国語の答案は、見直しをしている」「国語の宿題をきちんとしている」と回答している児童の割合が、全国平均をやや下回っている。 ●家庭学習でICT機器を活用できていると感じている児童の割合が少ない。	□発達段階に応じて、タブレットPCの持ち帰りや、タブレットPCを使った家庭学習を計画、実行する。 □単元末テストを行う予定日などを告げるなど、自分の力や成果を発揮する場に向けて頑張ることのできる機会を意図的に設定する。 □一度解いた問題に取り組むことを習慣化し、間違いから学ぶことの価値にも気付くことができるようにする。 □授業で行っている内容と家庭学習の内容との関連を図り、家庭学習を行う意義を自覚できるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答している児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。 ●勉強に図書館や辞書を利用していると回答した児童の割合が、全国平均を大きく下回っている。 ●「新聞記事を読んでいる」「本(漫画や雑誌を含まない)を読んでいる」と答えた児童の割合が、全国平均を大きく下回っている。 ●「地域の行事に積極的に参加する」や「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と思っている児童の割合が、全国平均を下回っている。	□新出漢字の学習などで、普段から辞書で調べるところを授業の中に取り入れて、自分から辞書を引けるようにする。 □身近な事象や地域の課題や正解のない問題を扱うなどし、児童が自分の考えをもつことができる学習の機会を設定する。 □総合的な学習の時間や国語科の学習を中心に、地域の課題に目を向けることができるような単元構成を行う。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○4年生の算数は、市と同程度であり、全国をやや上回っている。                  ●4年生の国語は市を下回っており、全国を大きく下回っている。                  ○5年生は国語で市・全国共に同程度である。                  ●5年生の算数は、市をやや下回っており、全国を大きく下回っている。                  ○6年生の国語は、県をやや上回っており、市・全国共に同程度である。                  ●6年生の算数は、市・県ともに同程度だが、全国を大きく下回っている。</p>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<p>○全体を通して正答率が高い。                  ●ローマ字について濁音と半濁音、つまる音の定着に課題がある。                  ●文章の読み取りに関して、情報を基に解答を考えることに課題がある。(特に文章をさかのぼって情報を読み取ることに課題がある)。</p>	<p>□視写などの定型作文や条件付き作文の練習に取り組む、作文の型を身に付けられるようにする。                  □解答の基になる情報に線を引き活動を通して、必要な情報を読み取る力をつける。</p>
	5年	<p>○「漢字を書く」ことは、全国の平均正答率を上回っている。                  ○書く内容の中心を明確にして文章の構成を考えることができる。                  ●内容の中心を明確にして、自分の考えを理由や具体例を用いて伝えることに課題がある。</p>	<p>□自分の考えを書く機会を充実させ、書くことへの抵抗をなくしていく。                  □自分の考えに自信をもつことができるように、朝の補充学習の時間を活用して基礎学力の向上を図ったり、ペアやグループ活動を活用し、自分の考えに対する不安を解消させていく。</p>
	6年	<p>○記述式の問題に関して、正答率が高い。                  ●漢字(特に送り仮名)の定着には課題がある。                  ●問題文の題意(言葉の意味)を捉えることに課題がある。                  ●条件付き作文で図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することに課題がある。</p>	<p>□読解力を高めるために、日々の学習で資料から情報を読み取る機会を設ける。                  □朝学習の際に新聞ワークなど、情報を読み取る学習に取り組む。                  □家庭学習を活用して漢字の定着を図る。</p>
算数	4年	<p>○基本的な筆算ができる。                  ●式の意味を理解することに課題がある。                  ●位を揃えて式を筆算に直すことに課題がある。                  ●多くの情報を整理して読み取ることに課題がある。</p>	<p>□式を筆算に直す問題に取り組む時間を設ける。                  □情報が多い問題に触れる機会を設け、問題の中から必要な情報を読み取る経験を積む。</p>
	5年	<p>○図や表の意味を読み取ったり、記入したりすることができる。                  ●基本的な四則計算の定着を確実にしていく必要がある。                  ●図形や対角線、辺の性質を理解することに課題がある。</p>	<p>□基本的な計算(四則計算)を練習する機会を増やす。                  □自分の解答を見直す習慣をつける。</p>
	6年	<p>○伴って変わる2つの数量の関係を捉えることができる。                  ●問題場面や問われている状況を整理しながら問題を解決していくことに課題がある。                  ●式や数の意味を読み取ったり、図形の性質を捉えたりすることに課題がある。</p>	<p>□式から立式の意味を考えたり、数の意味について考えたりする活動を行う。                  □友達の考えに関心をもち、理解していく機会を充実させていく。</p>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<p>○授業中に話を聞いたり、丁寧にノートを取ったりする児童が多い。                  ●分からないところを自力解決したり、質問したりせず、そのままにしている児童の割合が高い。</p>	<p>□学ぶ楽しさを味わうことのできる授業づくり                  ・既習を活かし、見通しをもって問題解決に取り組む。                  ・分からないことをそのままにしないために、学習内での疑問や困り感を学級全体で共有し、粘り強く考える機会を設ける。                  ・考えを多様な手段で表現する活動を取り入れていく。</p>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<p>○宿題に取り組む児童の割合が高い。                  ●宿題に取り組む児童は多いが、家庭学習が30分以下の児童の割合が4～6年生全体の約50%である。                  ●自分で分からないことを調べたり、予習や復習をしている児童の割合が低い。</p>	<p>□「家庭学習の手引き」や「学年・学級だより」等を通じて、家庭学習の取り組み方や児童の取組の様子を伝え、保護者と協力しながら家庭学習へ向かう力を育てる。                  □自学の取り組み方や提出の仕方などを共有し、子どもたちが計画性を意識できるように工夫していく。                  □学年や学級の実態を踏まえた授業づくりを行い、子どもが意欲的に家庭学習に取り組めるようにする。</p>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<p>○就寝や起床の時刻や朝食や夕食の摂取など、基本的な生活習慣は身につけている。                  ●ニュースや新聞から情報を得ている児童の割合が低い。</p>	<p>□生活習慣のさらなる向上を目指し、すこやか週間を活用していく。                  □新聞やニュースの記事を学習で扱うことで、子どもの社会に対する興味・関心を高め、家庭での取組のきっかけを作る。</p>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生の市学力・学習状況調査 ○国語・算数ともに、全国平均正答率を上回っており、おおむね良好な状況である。</p> <p>5年生の市学力・学習状況調査 ●国語・算数ともに、全国平均正答率を下回っている。</p> <p>6年生の全国学力・学習状況調査 ○国語は、県平均正答率を上回っている。 ●算数は、全国平均正答率を下回っている。</p>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○説明的文章で叙述をもとに文章の内容をとらえることについては、全国正答率を上回っている。 ●物語文では、文章全体をつかみながら心情の変化を読み取ることに課題がある。 ●自分の考えを、根拠を明確にして書くことに課題がある。	□国語の授業では、どのような叙述に着目するのか「見方・考え方」を明確にした実践を重ね、指導の充実を図る。 □テーマに沿って文章を書く活動を定期的に取り入れ、自分の考えを理由もつけて表現することの習慣化を図る。
	5年	○漢字の読みやことわざ、漢字辞典の使い方については、目標値を上回っている。 ●叙述から気持ちを読み取ったり、段落相互の関係をつかんだりするなど、文章の内容をとらえることに課題がある。 ●資料から読み取れることを踏まえて文章を書くことに課題がある。無解答の児童が多いことも課題となっている。	□国語の授業では、叙述をもとに考察する力を高めることをめざし、指導の充実を図る。 □さまざまな教科・領域の学習において、資料を読み取る経験を重ねる。 □必要な情報を選択し、条件に合わせて文を書く活動を定期的を設定する。
	6年	○複数の資料から必要な情報を見つけ、資料をもとに自分の考えをまとめる問題では、全国正答率を上回っている。 ○対話の場面をイメージしながら、自分が聞きたいことをとらえる問題では、全国正答率を上回っている。 ●同音異義語を意味によって使い分けることに課題がある。 ●中心となる語や文を用いて、要約することに課題がある。	□漢字の復習をしたり、意味をとらえて例文づくりをしたりなどの家庭学習をすすめ、学習内容の定着を図る。 □要約したり要旨をまとめる学習を国語科の授業で展開し、力の定着を図る。また、他教科(領域)にも学習内容を活かし、伝えたいことを端的にまとめる活動を取り入れる。
算数	4年	○かけ算・小数・同分母分数の計算、わり算の商と余りの関係を説明することについて、全国正答率を大きく上回っている。 ○□を使った式で、除法や乗法の式を選んだり表したりすることについては、全国正答率を大きく上回っている。 ●分数の数直線上での表し方に課題がある。 ●直径と半径、道のりと距離の意味理解について課題がある。	□分数を考えるときに、図や線分図だけでなく、数直線上での表し方を取り入れていく。 □算数で使う用語の意味を理解し、それらを使って説明ができるように指導の充実を図る。 □kmとmなどの単位換算について日常生活の中で活用して理解を図る。
	5年	○概数が示す数の範囲や、グラフの値を読み取る問題では、目標値を大きく全国正答率を上回っている。 ●基礎的な四則計算の計算力に課題がある。 ●「図形」領域の問題と、数量の関係を式に表す問題では、全国正答率を大きく下回っている。	□授業の中に、計算力向上のためのトレーニングを取り入れ、基礎となる計算を確実に行う力の定着を図る。 □デジタル教材を活用し、基礎となる計算や定義などの定着を図る。 □前学年までの学習とのつながりを授業で取り上げたり、復習課題を家庭学習に取り入れたりと、図形や数式への理解を図る。
	6年	○数量関係をとらえて式に表す「変化と関係」領域の問題の正答率は、全国正答率と同程度となっている。 ●「計算のきまり」の問題では全国平均を大きく下回っている。 ●自分の考えの理由を記述する問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。記述問題への未解答率も課題となっている。	□授業においては、既習事項を想起させ、それを活用できるように展開を工夫して行い、学習内容の定着を図る。 □個人思考の時間をしっかりと確保し、自分の考えを書き、友達に伝える機会を設定する。 □基礎的な学習の定着と、学んだことの活用を図るために、復習を中心とした家庭学習の展開を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業で学んだことを他の学習に活かしていると感じている割合は、市や県の平均を上回っている。 ●「対話的活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」の設問に対する肯定的回答率が、市や全国の平均を下回っている。 ●「国語の授業で、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目しているか」の設問に対して、肯定的回答の割合が少ない。	□対話の目的を明確にすることや、思考ツール等を活用して思考を可視化しながら対話するようにし、学びの深まりを実感できるようにする。 □授業で働かせたい「見方・考え方」を明確にした授業実践を重ねる。国語科では特に、どの叙述に着目して考えるのかを意識した授業改善を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立てて学習をしている」「集中して学習をしている」の設問に対して肯定的回答をした児童の割合が市や全国の平均を上回っている。 ●「授業で学んだことを使って、家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童の割合が、市の平均を下回っている。 ●読書時間が短い児童が多い。	□「家庭学習の手引き」に基づき、自主学習の取組を推進する。学んだことを活用した自主学習ができるよう、呼びかけを積極的に行う。 □本を読んで考えたことを短作文にまとめたり、家庭読書の取組を行ったりして、読書への関心・意欲を高める。また、さまざまなジャンルの図書を読むことを呼びかけたり、学習に関連する図書を紹介したりして、児童の読書意欲を喚起する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分で時間を決めてテレビを見ている」と回答した児童の割合が全国平均を上回っている。 ○外国について興味関心をもったり外国の人と友達になりたいと思っている児童の割合が全国平均を大きく上回っている。 ●「夜は時間を決めて(同じくらいの時刻に)寝ている」の設問に対する肯定的回答の割合が全国平均を下回っており、睡眠時間の確保が課題となっている。 ●「地域の行事に参加している」と回答した児童の割合が全国平均を大きく下回っている。	□生活習慣づくりへの働きかけを継続して行い、テレビ以外のメディアとの付き合い方や質の良い睡眠の確保についての意識を高めていく。 □生活科や総合的な学習の時間等で地域の「ひと・こと・もの」を積極的に活用し、地域への関心を高める。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生国語は市平均正答率をやや上回り、また全国平均正答率と同程度で、おおむね良好な状況である。
- 4年生算数は市平均正答率及び全国平均正答率と同程度である。
- 5年生国語は市平均正答率をやや上回り、また全国平均正答率と同程度で、おおむね良好な状況である。
- 5年生算数は市平均正答率を上回り、また全国平均正答率と同程度で、おおむね良好な状況である。
- 6年生国語は市平均正答率及び全国平均正答率と同程度である。
- 6年生算数は市平均正答率と同程度であるが、全国平均正答率をやや下回っており、「図形」「変化と関係」の領域にやや課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○指定された条件で文章を書く問題での正答率が高く、全国平均を上回っている。 ●聞き取ったことの要点をまとめて、整理する力に課題が見られる。 ●文章の前後関係をとらえて、正しい文章になっているかどうかを見直したり、正しい文章になっているかを判断することに課題が見られる。	□新聞ワークシートを家庭学習に取り入れていく。 □アウトプットの機会(書く、話すなど)を増やす。
	5年	○漢字の読みの正答率が高い。 ●連用修飾語についての問題、指定された長さで文章を書くことに課題が見られる。 ●問題の多さに慣れておらず、最後までたどりついていないことから、後半の無解答率が高い。	□段落や文字数を指定したもので文章を書く活動を継続して行っていく。 □要約学習を取り入れ、文章の概要をとらえる力や、文章を簡単にまとめる力を高める。
	6年	○記述式の問題の得点が全国平均を上回っている。 ●問題文の分量が多く、情報処理ができていない。 ●自分の思いや感想を記述することはできているが、資料から読み取ったことを記述にまとめる活動に課題が見られる。	□話し合いの要旨を捉えて分析する力を高めるために、話し合いの経験を重ねる。 □調べたこと、分析したことを短く的確に文章でまとめることを、社会等の他教科でも、積極的に取り組む。
算数	4年	○計算の基本的な力がついている。 ●学習した内容を使って考える「活用」に課題がある。 ●論理的思考に基づいて考えたり、課題解決への見通し(道筋)をもって取り組んだりすることに課題が見られる。	□課題解決の見通しをもたせたり、活用力を意識した授業づくりに取り組む。
	5年	○市の平均を上回り、おおむね良好である。 ●概数の理解に課題が見られる。 ●多くの情報から、必要な情報を取捨選択して答えることに課題がある。	□計算主体のプリントだけでなく、文章題のあるプリントをしたり、計算問題が苦手な児童の補習をしたりする。
	6年	○データの活用に強みがあり、全国平均を上回っている。 ●図形、変化と関係に課題がある。 ●割合の知識、技能に課題がある。	□1～3年生で図形の具体操作をしっかりして図形の感覚をもたせる。 □学習中のペア学習で説明する機会を充実させ、自分の理解を言語化する時間を設ける。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語、算数ともに、授業中教師の話をしっかり聞いたり、ノートに取ったりする児童が多い。 ○話し合いで相手の話をしっかりと聞き取っている児童が多い。 ●自分が認められていると感じている児童が少ない。 ●算数の授業で分からないことがあった時、質問する児童が少ない。 ●新聞の記事を読んでいる児童が少ない。	□めあてと振り返りの充実に関心が、児童が見通しをもって学習できるようにすると共に困り感に気づくことができるようにする。 □算数では複数の教員によるきめ細やかな指導を行う。 □児童のがんばりを様々な形を通して伝える。 □新聞に結び付けた課題の設定を行う。(子ども新聞等の活用)
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○宿題に進んで取り組んでいる児童が多い。 ●復習に取り組む児童は多いが、予習に取り組む児童は少ない。	□自学を推奨し、自分に必要な学習内容に工夫して取り組む力や態度を育てる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。 ●地域の行事に参加している児童が少ない。	□地域の行事を発信するために、宣伝チラシ等の配布を行う。 □各教科でふるさと学習との関連を考え、地域への発信を行うような学習のゴールを設定する。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生:国語の平均正答率は、市と全国を下回っている。算数は、市と全国と同程度である。</p> <p>5年生:国語、算数とも平均正答率は市と全国を下回っている。</p> <p>6年生:国語も算数も平均正答率は県と同程度であり、全国を下回っている。</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●6年生は、知識・技能に関する問題に課題がある。</li> <li>●4年生、5年生、6年生とも思考・判断・表現に関する問題に課題がある。</li> </ul> <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4年生は、知識・技能に関する問題は概ね良い。</li> <li>○6年生は、知識・技能に関する問題は概ね良い。</li> <li>●4年生は、思考・判断・表現に関する問題にやや課題がある。</li> <li>●5年生、6年生は思考・判断・表現に関する問題に課題がある。</li> </ul>
---

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み、書きの問題は概ね良い。 ●物語文・説明文の読み取りの正答率が低く、特に人物の気持ちの変化を捉えることに課題がある。 ●記述式の問題に無解答率が高く、自分の考えやその根拠を明確にして文章を書くことに課題がある。	□授業の中で、自分の考えや根拠を書く活動に取り組む。 □授業の中で意味調べをしたり、読書の習慣をつけたりすることで、語彙力を高める。
	5年	○漢字の読みの問題は概ね良い。 ○物語文や説明文の内容を読み取る問題は概ね良く、特に物語文の正答率が高い。 ●漢字を書く問題に課題がある。 ●話し合いの意見の相違点に着目して、考えをまとめることに課題がある。 ●指定された条件に合わせて文章を書くことに課題がある。	□定期的な漢字テストを実施することで、家庭学習や朝学習で計画的に学習する力をつける。 □指定された条件に合わせた文章を書く練習を積み重ねる。
	6年	○内容を読み取るに関する問題は概ね良い。 ○資料を読んで自分の考えをまとめる問題は概ね良い。 ●漢字を書く問題に課題がある。 ●資料を読み取って、問題点と解決策などの条件に基づいて作文することに課題がある。	□日頃から、漢字を使うように指導する。 □定期的に漢字テストを行い、正解が8割に満たない児童は補充学習を行う。 □論理的に思考する力を高めるために、指定された条件に合わせた文章を書く練習を積み重ねる。
算数	4年	○データの整理、四則計算の仕方に関する問題は概ね良い。 ●長さや重さでは、単位を変換して考えることに課題がある。	□長さや重さでは、日常生活の中で量感をつかませる場面を意識的に作るようにする。 □単位の基礎的な知識について、繰り返し補充学習を行う。
	5年	○小数、分数の基礎的な計算に関する問題は概ね良い。 ○角の大きさは正しく読む問題は概ね良い。 ●2つの数量の関係を捉えることや、説明することに課題がある。 ●図形の面積の求め方を説明することに課題がある。	□日々の学習の中で、問題を解くだけでなく、解き方を説明する文章を書く活動を取り入れる。 □問題を数直線に表すことで、2つの数量関係の捉える感覚を養わせる。
	6年	○四角形の名前の理解に関する問題は全国平均より高い。 ○表の読み取りに関する問題は全国平均より高い。 ●数と計算領域の問題に課題がある。 ●変化と関係の領域では、比例の関係を使って数値を答えることに課題がある。 ●等積変形の考えをもとにした問題、四角形や三角形の性質をもとにした問題など、図形の領域に課題がある。	□日々の授業の中で、図形の面積を求める公式や図形の特徴をふりかえるようにする。 □日々の学習の中で、問題を解くだけでなく、解き方を説明する文章を書く活動を取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4年生は「考えを進んで話している」と答えた児童の割合が全国平均より高い。 ○5年生は「相手の話をしっかり聞き取っている」と答えた児童の割合が全国平均より高い。 ○6年生は「話し合いで自分の考えを深めたり広めたりできた」と実感している児童が7割いる。 ●6年生は「解き方がわからない時に、あきらめず色々な方法を考える」児童の割合が全国平均より低い。 ●4年生は「話を聞くことに課題がある」と答えた児童の割合が全国平均より高い。 ●5年生は「話し合い活動で自分の意見を伝えること」にやや課題がある。	□本校では「学び合いのある授業づくり」を通じた授業改善に取り組んできており、児童同士や対教師などの対話を通して理解を深めたり、分かる喜びを味わったり、共感したりできるような充実した授業づくりに努める。 □児童が主体的に問いをもち、課題解決に向けて粘り強く考えたり活動したりする学習過程を重視した授業づくりに努める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○5年生は「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」児童の割合が全国平均より高く、4年生、6年生は同程度である。 ○6年生は「家庭で読書をしている」児童の割合が全国平均と同程度である。 ●4年生、5年生は「読書をしている」と答えた児童の割合が全国平均より低い。 ●6年生は「平日の家庭学習時間が1時間以上」と答えた児童が5割程度で、全国平均より低い。 ●5年生は「家の人から言われないと勉強できなかったり、家で学習する場所が決まっていなかったりする」などの課題がある。	□家庭学習との関連を意識した授業作りを行い、確実に家庭学習を行わせることで基礎学力を定着させる。家庭学習の手引きにある「10分×学年+10分」の時間の確保ができる課題を出し、家庭との連携を図って共に継続的に指導するようにする。 □学校図書館を利用した学習を増やし、本でよく調べたり家庭で本に触れたりすることで読書に関する関心を高める。また、朝読書や家読の推進を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○4年生は「睡眠不足にならないようにしている」児童の割合が全国平均より高い。 ○6年生は「朝食を毎日食べる」児童の割合が全国平均より高い。 ○4、5年生は「夕食をきちんと食べたり家族と一緒に食べたりしている」児童の割合が全国と同程度である。 ●5年生は「朝食をきちんと食べることや就寝時刻を決めて寝ている」児童の割合が全国平均より低い。 ●4、5、6年生とも「地域の行事に参加している」児童の割合は全国平均より低い。	□「生活ふり返り週間」などの機会や日々において家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図っていく。 □コロナ禍で地域の行事に参加できない状況が続いていたが、地域によさに気づくことができるような教育活動に取り組んでいく。本校は、学習支援ボランティアや登下校の見守り活動、総合的な学習の時間における講師など、地域の方や保護者がとても協力的であるので、地域の人や行事に目を向けさせ、関心をもたせていく。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生、5年生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●○4年生国語科は、全国平均正答率を大きく下回り、領域別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の正答率が大きく下回った。「書くこと」の正答率はやや上回った。</li> <li>●4年生算数科は、全国平均正答率を大きく下回り、領域別に見ると、「図形」の正答率が大きく下回った。</li> <li>●5年生国語科は、全国平均正答率を大きく下回り、領域別に見ると、「書くこと」の正答率が大きく下回った。「話すこと・聞くこと」は全国正答率と同程度であった。</li> <li>●5年生算数科は、全国平均正答率を大きく下回り、観点別に見ると、「知識・技能」の正答率が大きく下回った。</li> </ul> <p>6年生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国語科において、全国平均正答率を大きく下回り、領域別に見ると、「書くこと」の正答率が大きく下回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県、全国正答率と同程度であった。</li> <li>●算数科において、全国平均正答率を大きく下回り、領域別に見ると、「図形」が全国、県正答率を大きく下回った。</li> </ul>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「叙述を基に文章の内容を捉える」「自分の考えを明確にして文章を書く」の問題の正答率が高かった。</li> <li>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られた。</li> <li>●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことに課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□中心となる語や文を見つけて要約することを繰り返し練習するようにする。</li> <li>□自分の考えをまとめる時間をしっかりととり、それをもとに話し合いに生かす活動を意図的に取り入れる。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ことわざの意味を知り、正しく使う」「漢字辞典の使い方を理解する」問題の正答率が高かった。</li> <li>○「話し手が伝えたいことの中心を捉える」「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」問題の正答率が高かった。</li> <li>●漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題が見られた。</li> <li>●条件にしたがって文章を書くことに課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□既習漢字の読み書きの反復練習で漢字の定着を図り、ミニテストや書き取り会を継続して行う。</li> <li>□授業の中で、書き方の構成や文字数など、条件を指定して文章を書く活動を取り入れる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「漢字を文の中で正しく使う」問題の正答率が高かった。</li> <li>●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られた。</li> <li>●情報を整理して、条件に合う文章を書くことに課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞ワークシートなど、情報と情報を関連付けたり、図などによる語句と語句との関係の表し方を考える問題に繰り返し取り組む。</li> <li>□毎週の朝学習の時間を利用して、書き方の構成や文字数など、条件を指定して文章を書く練習をする。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「□を使った減法の式にあったお話を選ぶ」問題の正答率が高かった。</li> <li>●円の直径の問題や、ボールの入った箱の辺の長さからボールの半径を読み取る問題に課題が見られた。</li> <li>●1mmや1mLなど、m(ミリ)がついた単位を1000倍するとm(ミリ)がとれることを説明する問題に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業の中で、算数用語や既習事項の定着の確認を繰り返し行う。</li> <li>□様々な活用問題や多様な出題形式の問題を解くことで、文章題から問題の意図を読み取る力を高める。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「比較量を求める乗法の文章問題を表した図を選ぶこと」や「2つの数量の関係をもとに大きさの何倍になったかを考えて比べる」問題は正答率が高かった。</li> <li>●角の大きさ(目盛りの読み取り、180°以上の角の読み取り)に課題が見られた。</li> <li>●()や四則の混じった計算問題に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□分度器やリットルマスなどの具体物を使って実際にはかる回数を増やし、量感を育てる。</li> <li>□様々な活用問題や多様な出題形式の問題を解くことで、文章題から問題の意図を読み取る力を高める。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表やグラフのデータを読み取って活用する問題の正答率が高かった。</li> <li>●算数用語の意味理解(以上、以下、未満)に課題が見られた。</li> <li>●図形の性質や定義の理解に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業の中で、算数用語や既習事項の定着の確認を繰り返し行ったり、算数用語を使って言葉で表現したりする経験を多く取り入れる。</li> <li>□図形を描いたり、組み立てたりする活動を増やし、図形に対するイメージを育てる。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業中のノートをきちんととろうとする児童の割合が高い。</li> <li>●課題の解決に向けて自分で考え、自ら取り組もうとしたり、わからない問題を質問したりする児童の割合が低い。</li> <li>●新聞や本を読むと答えた児童の割合が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□質問しやすい雰囲気を作っていくように、教師に聞きやすい環境を整えたり、友達と教え合う学習を行い、自らの考えや思いを言葉で表現したりする活動を多く取り入れる。</li> <li>□児童が主体的に学習し、課題解決に向けて粘り強く考えたり活動したりしやすくなるように、めあてとそのふり返りなどを重視した授業づくりに努める。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分で計画して家庭学習をすると答えた児童が多い一方、家庭学習の時間が短い児童もおり、家庭学習に自主的に取り組んでいる児童と、取り組むことに課題が見られる児童とに2極化している。</li> <li>●わからない言葉を辞書で引いたり、本を読んだりすると答えた児童の割合が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭学習の手引きを使って自主学習や予習復習をするように促したり、家庭で話し合い、決めた時間に宿題や自主学習をできるように、家庭との連携をとるようにする。</li> <li>□学校図書館の活用、教職員や地域の方の読み聞かせ、家での読書週間の設定を行い、読書の習慣化をすすめる。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校で使うものを自分で準備していると答えた児童の割合が高い。</li> <li>●地域の行事に参加していると答えた児童の割合が低い。</li> <li>●メディアとの接触時間、起床時間や就寝時間など、基本的な生活習慣に課題が見られる児童の割合が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域よさに気づくことができるような教育活動に取り組んだり、積極的に地域行事に参加するように働きかけたりする。</li> <li>□基本的な生活習慣(学習時間・メディア・朝食、挨拶など)を家庭で振り返る週間を設けて、家庭によりよい生活習慣の確立を呼びかけたり、メディア教育などを通して、規則正しい生活習慣の大切さをその都度児童に伝えたりしていく。</li> </ul>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生は、国語も算数も全国の平均正答率と同程度であった。また、領域別で見ると、国語では「我が国の言語文化に関する事項」、算数では「データの活用」において大きく上回った。  
 ○5年生は、国語も算数も全国の平均正答率と同程度であった。また、領域別で見ると、国語では「書くこと」において大きく上回り、算数では「図形」において大きく下回った。  
 ●6年生は、国語も算数も全国の平均正答率を大きく下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」「漢字のへんやつくりを理解している」「叙述を基に文章の内容を捉えている」の問題の正答率が高かった。 ●「登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像している」「叙述を基に段落の内容を捉えている」「情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている」の問題の正答率が低かった。	□読解プリントなどで初読の文章の読み取りに繰り返し取り組む。 □文字数や内容などの条件を加えた作文活動を継続する。
	5年	○「連体修飾語について理解している」「書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えている」「情報と情報との関係について理解し、書き表し方を工夫している」の問題の正答率が高かった。 ●「第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる」「叙述を基に文章の内容を捉えている」「叙述を基に段落相互の関係を捉えている」の問題の正答率が低かった。	□文字数や内容などの条件を加えた作文活動を継続する。 □学校図書館活用学習を通して複数の資料から読み取り、伝えたいことをまとめていく学習を継続する。
	6年	○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」の問題の正答率が高かった。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」の問題の正答率が低かった。	□総合的な学習の時間等を活用し、情報の整理分析する機会を増やす。 □文字数や内容などの条件を加えた作文活動を行う。
算数	4年	○「小数のしくみを理解している」「正三角形を作図することができる」「棒グラフを読み取り、いちばん少なかった組を指摘することができる」の問題の正答率が高かった。 ●「かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している」「道のりを求めることができ、どちらの道のりの合計が短いかを説明している」の問題の正答率が低かった。	□式や図、言葉など多様な方法で表現することができるような授業改善を図る。 □プリントを活用し、課題が見られた問題を中心に復習を行い、一人ひとりの習熟度の実態を把握し、個別の指導を行う。
	5年	○「上からある桁までの概数の表し方を理解している」「計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる」の問題の正答率が高かった。 ●「四角形の対角線の性質を理解している」「概数に対応する数の範囲を理解している」の問題の正答率が低かった。	□朝活動の時間を活用し、プリントを使って課題が見られた問題を中心に復習を行い、理解が難しい児童の実態を把握しながら個別の指導を行う。 □式や図、言葉などを使って考えたことを表現することができる場の工夫などを通して授業を改善する。
	6年	○「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること」の問題の正答率が高かった。 ●「2位数÷1位数の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えると」「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること」の問題の正答率が低かった。	□問題の意味を理解し、解決方法を全員が説明する活動を取り入れる。 □学びが定着するように、個別の指導やお互いに説明しあう活動を取り入れる等の授業改善を行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「学習のめあてと振り返り」に関する質問項目への肯定的な回答が、出雲市平均を大きく上回った。(4, 5年) ●「5年時までに受けた授業」に関する質問項目への肯定的な回答が、全国平均を大きく下回った。(6年生) ●学校でのICT活用に関する質問項目への肯定的な回答が、全国平均を大きく下回った。(4, 5, 6年生)	□どの教科でも、児童が学習のねらいに迫ることができるようなめあてを吟味し提示すること、学習の振り返りがセットで実施できるよう続けていく。 □タブレットを全ての授業で活用していくことと並行して、情報モラルやICT活用スキルを高めていくようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「勉強するときは、集中して勉強している」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回った。(4年生) ○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回った。(5年生) ●「家庭での学習方法、学習環境等」に関する質問項目への肯定的な回答が、全国平均を大きく下回った。(4, 5, 6年生)	□学年に応じた自主学習の手引き等を示すことで、めあてをもって学習に取り組むことができる環境を整える。 □四絡読書の日、ダウンメディア週間等の活動を通し、家庭と連携を図りながら主体的に学習に向かう態度を養う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何をしたらよいか、考えることがあるか」について、肯定的な回答が市平均を大きく上回った。(4年生) ●「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく下回った。(6年生) ●「地域行事に参加したか」について、肯定的な回答が市平均、全国平均を大きく下回った。(4, 5, 6年生)	□主に生活科・総合的な学習の時間において、地域の「人・もの・こと」を効果的に活用した実践を続ける中で、地域との連携を一層密にしながら、地域の一員である自覚や郷土愛を高めるようにする。 □行事や縦割班活動の見直しを立て、学んだことを振り返りながら、次の行事や活動・生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 高学年の国語・算数は、全国の平均正答率と同程度、または上回っている。  
 ●4年生の国語・算数は、全国または市の平均正答率を大きく下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きについては、市の平均正答率をやや上回る。 ●全国または市の平均正答率を大きく下回り、特に活用に課題がある。 ●情報を読み取る問題、文章を書く問題について課題がある。	□作文の書き方指導を行ったり、普段の授業の振り返りを文章で表したりして、書くことに慣れるようにする。 □日常的に話したり書いたりする中で、主述関係を押さえながら表現できるようにする。 □学校図書館に行く機会を設定し、読書量を増やす。国語辞典で調べたことを習慣化し、語彙を増やす。
	5年	○全国の平均正答率をやや上回る。説明文の読み取りについては良好である。 ●漢字の読み書きと物語の読み取りに課題がある。	□日常的に習った漢字を使って文章を書くようにする。 □日頃から読書に親しんでいるが、選書に偏りが見られるので、物語を読む機会を増やす。また、登場人物の行動から心情を想像する力を付ける。
	6年	○全国または市の平均正答率と同程度である。 ●話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えを記述する問題の正答率が低い。 ●原因と結果など情報と情報との関係や、文の特徴について理解することに課題がある。	□インタビューや話し合いの場面では、目的や意図に応じて話の内容を捉えることができるようにする。また、話し手の発言を関係付けながら聞き、メモ等に整理した上で自分の考えをもつことができるようにする。 □教材資料や新聞等を活用し、関連する語句や文章を元に情報と情報の関係を整理し、理解できるようにする。
算数	4年	○□を使った式の問題は、全国または市の平均正答率を大きく上回っている。 ●全国または市の平均正答率を大きく下回り、基礎、活用とも課題がある。特に基礎的な四則計算に課題がある。	□計算会により四則計算の定着を図る。 □問題場面を、図、式、言葉などと関連付けながら自分や友達の考えを説明する学習に取り組む。 □既習事項を想起させる言葉かけや掲示を工夫する。
	5年	○全国の平均正答率と同程度である。小数や分数などの基礎的な計算については良好である。 ●図形に関する問題や2つの数量の関係を式化する問題の正答率が低い。	□日常的に算数用語を用いて、自分の考えを説明できるようにする。 □図形に関わる用語、定義や性質を確認しながら図形の構成要素に着目できるようにする。 □問題文、具体的な場面、図、式、言葉などを関連付けた学習を行い、それぞれの意味理解を深める。
	6年	○全国または市の平均正答率を上回っており良好である。 ●図形の構成要素に着目して考え、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が低い。	□学習内容の定着を図るとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける学習活動を行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いでは、自分の考えを積極的に話したり、相手の話をしっかり聞いたりと、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が多い。 ○授業でPC・タブレットなどのICT機器の使用または役立つと答えている児童が多く、授業でも活用している。	□自分の考えを表現したり友だちの考えと比較しながら考えを深めたりする学習活動を行う。 □学年や教科に応じて、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、学校図書館資料等と併用しながら調べたり、まとめたことを発表をしたりする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○自分で計画を立てて学習していると答えた児童が8割を超えている。 ●読書を好む児童が少なく、読書や新聞などの活字に触れる機会も少ない。	□学期毎にノーマディア週間を実施するとともに、併せて家庭学習がんびり週間やファミリー読書を行い、家庭学習の見直しを図ったり、読書の機会を増やしたりする。 □自学ノートはコメントや評価を行う。また、校内掲示や表彰をすることで家庭学習への意欲付けを行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○基本的な生活習慣が身につけている児童が多い。 ●行事に参加している児童が少なく、地域や社会に何かしてみたいと答えた児童も少ない。	□身近な社会(地域)への愛着、関心はとても高いので、身近な課題や地域教材をテーマにした学習活動の工夫をする。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 平均正答率の比較
- ・4年生の国語は、市と同程度だが、全国より下回る。算数は、全国と市との差は見られない。
- ・5年生の国語は、市と全国ともに同程度。算数は、市よりやや下回り、全国を大きく下回る。
- ・6年生の国語は、県より大きく上回り、全国よりやや上回る。算数は、県と同程度だが、全国よりやや下回る。
- 漢字や算数の基礎基本は定着が見られる。
- 学習でタブレットを使用し、その効果を実感している。
- 登場人物の気持ちを読み取ったり、条件にそって自分の考えを記述したりすること。
- 算数用語を使って考え方を説明したり、応用問題を解決したりすること。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正しく書くこと。</li> <li>○文章を読んで大まかな内容をとらえること。</li> <li>●物語文の登場人物の気持ちを読み取ること。</li> <li>●文章を要約したり、自分の考えをまとめて書いたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□登場人物の気持ちを読み取る力や語彙量を増やすために、読書を推進する。</li> <li>□様々な種類の文章を読んだり、まとめて書いたりする経験を増やすため、朝活動で新聞ワークシートを行う。</li> <li>□作文を書く時、主語、述語、修飾語の関係を意識させる。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正しく読むこと。</li> <li>○ことわざの意味や漢字辞典の使い方</li> <li>●登場人物の気持ちの変化について具体的に想像すること。</li> <li>●指定された長さで文章を書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□物語の本を読むように指導する。</li> <li>□授業中に、山場における登場人物の心情の変化について、ペア・グループ・全体で話し合わせる。</li> <li>□条件作文を書く練習を行う。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を読み理解して、選択して解答すること。</li> <li>○記述式の問題に正答している。</li> <li>●同音異義語の漢字。</li> <li>●複数の資料をもとに、条件にそって記述すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□文章を書く時、漢字を使わせる。漢字についてのトピックを読んだり、紹介したりする。</li> <li>□複数資料の読み取り、複数資料を処理する体験をする。</li> <li>□自分の意見を持ち、友達の見解を聞いたり、書いたりするやり取りを繰り返す。自分の意見がもてない時は、友達が言ったことから選ばせる。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な計算問題。</li> <li>●記述問題や応用問題。無解答も見られる。</li> <li>●量の単位の関係。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□式や数を用いた論理的な説明ができるよう、ペアやグループで、説明する機会を設ける。</li> <li>□授業、生活場面など、いろいろな場面で単位の換算を行う機会を設ける。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○折れ線グラフの読み取り。</li> <li>●四則計算</li> <li>●角の大きさ。</li> <li>●複合図形の面積を求めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□基礎・基本を活用して練習問題に取り組む。</li> <li>□作図などを丁寧に行う。</li> <li>□図に表して考えることで、意味を理解しながら解くことができるようにする。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比例、百分率で表された割合の理解。</li> <li>○2次元表の読み取り。</li> <li>●式や言葉で求め方を説明する際、必要な言葉が足りなかったり、無解答だったりする。</li> <li>●図形の特徴や性質の理解。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□算数用語を使って、友達に説明する機会を授業中に設ける。</li> <li>□図形は、習熟と前学年の復習を計画的に設定する。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習にパソコンなどのメディアを活用している。</li> <li>●自分の考えを説明したり、書いたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□算数科を中心に、学習で使う言葉を使って、自分の考えを友達に話したり、書いたりする活動を設定する。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で勉強の計画を立てて、勉強できている。</li> <li>●習熟と前学年の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□間違った所の見直しや解き直しを確実に行うよう促す。</li> <li>□高学年は、該当学年の習熟と全学年の復習がバランスよくできるよう、自学メニューを示す。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域よさを実感できている。</li> <li>●本や新聞など活字にふれる機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□月、木を全校朝読書に位置づけ、学校で読書をする時間を確保する。家庭への本の持ち帰りを推奨する。</li> <li>□学力パワーアップ週間中は、15分以上の読書時間を目標とし、毎日カードを提出させて実態に応じた声がけをしていく。</li> </ul>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神西小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全学年がおおむね良好な状況である。  
国語を見ると、4、5、6年生とも全国平均正答率を上回っている。  
算数を見ると、4年生と5年生が全国平均正答率を大きく上回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○全体的に良好な結果である。 ○3年生で学習した漢字を正しく読むことができている。 ●書くことの領域が全国平均正答率と比べて低かった。時間が足りず、無解答の児童もいた。 ●記述の問題では、条件を踏まえて書くことに課題がある。	□文章を書く課題の時に、条件(段落・会話文・考えを明らかにして理由を書く、ていねいな言葉遣い)を設けて自分の考えを書く力をつける。 □時間を意識して課題に取り組むよう指導する。
	5年	○おおむね良好な状況である。 ○漢字を読むことがよくできている。 ●文章の細かい読み取りに課題がある。 ●漢字の送りがなに課題がある。	□根拠を明らかにして説明できるよう指導する。 □新聞を活用し、読む力を高め、自分の意見(メリット・デメリットなど)を書くようにする。
	6年	○おおむね良好な状況である。 ○漢字が定着している。 ●いろいろな資料を見比べて必要な情報を読み取り、それを文章に書き表すことに課題がある。 ●文章の前後のつながりや、全体を読むことに課題がある。	□思考ツールを使って情報の読み取りができるように指導する。 □本やインターネット、パンフレットなど様々な資料から情報を選択し、関連付けてまとめる調べ学習を行う。
算数	4年	○全体的に良好な状況である。 ●表と棒グラフの問題は、全国平均正答率を下回った。	□グラフの1めもりが1でない場合についても扱うことで再確認する。 □算数の折れ線グラフや理科の気温の変化など、複数の教科でグラフの読み方や書き方を学習する。
	5年	○全体的に良好な状況であり基礎的な力は身につけている。 ●位取りや大きな数の問題に課題がある。	□位取り黒板を使うなどして、視覚的に支援を行う。 □授業の中で見通しをもつ→個人思考→グループでの話し合いを意識し、自分の考えを記述したり、友達のよい考えを取り入れたりする時間を大切にす。
	6年	○全体的に良好な状況であり基礎的な力は身につけている。 ●思考力を求められる課題に対して、基礎的な力を生かすことに課題がある。 ●考えを論理的に説明することに課題がある。	□既習事項を生かす習慣、関連付けて考えることを意識できるような指導をする。 □問われていることを明らかにして、課題解決を図るような指導をする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業ではきちんとノートをとっている」と回答した児童が多い。 ●「話し合いで自分の考えを積極的に話している」と回答した児童が全国平均と比べて少ない。 ●「分からない言葉があれば、辞書を引いている」と回答した児童が少ない。	□伝え合いの場面では、自分と相手の考えを比較し、考えのよさを見つけたり、相手の考えをもとに自分の考えをより深めたりするような支援をする。 □伝え合う前に個人の思考時間を確保し、自分の考えを明らかにできるようにノートなどに書いてまとめる学習を大切にす。 □国語の各単元のはじめに、語句の意味を調べる時間を設ける。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」と回答した児童が多い。 ○ほとんどの児童が「宿題をきちんとしている」と回答している。 ●国語・算数ともに「返された答案の見直しをしている」と回答した児童が全国平均と比べて少ない。	□自学ノートを活用して、テストで間違えた問題をもう一度解き、なぜ間違えたのか、どのように考えればよかったのかを自分で考える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と回答している児童が全国平均を上回った。 ●「新聞記事を読んでいる」と回答した児童が少ない。 ●「自分で時間を決めてテレビを見ている」と回答した児童は全国平均と比べて少ない。	□学校司書と協力して、朝の活動で新聞を活用したり、家庭学習で取り組んだりできるようにする。 □校内の「元気もりもりチャレンジ週間」において、メディアの時間を意識させて取り組む。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>(国語)</p> <p>全国の平均正答率と比べて4年生は、大きく下回り、5年生も下回り、6年生は同程度である。</p> <p>○5年生は、物語の内容を読み取る力が全国を大きく上回る。</p> <p>●4、5年生ともに、文章を書く力が全国を大きく下回り、6年生においても書くことの無解答率が高く、表現することに課題がある。</p> <p>(算数)</p> <p>全国の平均正答率と比べて4年生は大きく上回り、5年生、6年生は同程度である。</p> <p>○データの活用は、4年生は全国を大きく上回り、5年生、6年生はやや上回った。</p> <p>○4年生は、活用の問題が全国を大きく上回った。</p> <p>●5年生、6年生は、記述式が全国を下回り、問題を読み取って立式することに課題がある。</p>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<p>○漢字・言葉の学習の力がついている。</p> <p>●書くことの領域に課題がある。</p> <p>●時間内に問題を解いたり、読み取って与えられた条件で自分の言葉で書いたりすることに課題がある。</p>	<p>□初見の文章を読み、内容を読み取ったり、決められた条件で書いたりする活動を取り入れる機会を増やす。</p> <p>□タブレットドリルを活用し、個々の課題の克服や習った学習内容の定着を図る。</p>
	5年	<p>○物語の読み取りの正答率が高い。特に、登場人物の気持ちについて、叙述をもとに考えることができる。</p> <p>●漢字の読み・書きが全国よりも大きく下回っている。</p> <p>●文章を書くこと、特に、自分の考えを事例をもとにしながら説得力を持たせながら書くことに課題がある。</p>	<p>□漢字ドリルを繰り返し学習し、読むことの定着を図る。</p> <p>□習った漢字は活用する、習っていない漢字も読むことを中心に扱うことで、漢字に関心を持たせ、日頃から漢字を使うようにする。</p> <p>□書くことについては、読むことの単元などで教師が意識して、書く活動を設定する。その際、書き方の例をきちんと示し、モデルを参考にしながら書けるようにする。</p>
	6年	<p>○おおむね、どの設問でも正答率が高い。</p> <p>○選択肢から答えを選ぶ問題に強い。</p> <p>●他者の考えを理解して、問題点を見つけたり、比較したりして、自分の考えを書くことに課題がある。</p>	<p>□自分の考えをまとめて書く、人の考えと比べて書くという授業を計画的に取り入れる。</p>
算数	4年	<p>○基礎的な計算技能が身につけており、どの設問でも正答率が高い。</p> <p>●「図形」、「時刻と時間」に課題がある。</p>	<p>□掲示物や具体物を置くなど図形に触れる機会を増やす。</p> <p>□授業の中で算数用語をしっかりと取り入れて話す。</p> <p>□タブレットドリルを活用し、学習内容の定着を図る。</p>
	5年	<p>○小数、分数などを含む基礎的な計算技能が身につけている児童が多い。</p> <p>○計算のきまりを理解している。</p> <p>●面積や図形の性質、わり算(小数、あまりのある)の計算についての理解に課題がある。</p>	<p>□個の実態把握をもとに、課題となることを明らかにして、計算のスキル等が身につけられるようにする。</p> <p>□クラスの枠を外して少人数指導を行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>□立式の理由や、自分の考えを順序だてて最後まで説明する活動を大事にする。</p>
	6年	<p>○おおむね、どの設問でも正答率が高い。</p> <p>●なぜその解答になったのかなど、根拠をもとに説明することに課題がある。</p>	<p>□自分の考えの道筋や、友達の式をみてどう考えたのかを理解して説明するような授業を計画的に設定する。</p>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<p>○先生の話をきちんと聞こうとしている児童の割合が高い。</p> <p>○ノートをきちんと書こうとしている児童の割合が高い。</p> <p>●自分の考えを伝えたり、人の考えと自分の考えを比べたりする児童の割合が低い。</p> <p>●わからない言葉を自分で辞書を使って調べる児童の割合が低い。</p>	<p>□ペアやグループなどの伝える場の設定や発表の仕方の工夫により、伝えることや考えを比べながら聞くスキルが身につくようにする。</p> <p>□発達段階に応じて、タブレットを活用して自分の考えを交流しやすい環境を作る。</p>
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	<p>○学校で使うものは自分で用意している児童の割合が高い。</p> <p>○宿題をきちんとしている児童の割合が高い。</p> <p>●本や新聞を読んだりニュースを見たりする児童の割合が低い。</p> <p>●生活の計画は立てるが、実際の学習時間が短く、参考書や辞書を使った学習をする児童の割合が低い。</p>	<p>□日ごろから新聞の記事に触れることができるよう新聞記事のワークシートを活用したり、掲示に取り入れられたりする。</p> <p>□家庭での学習計画の立て方、自主学習の取組の指導を再度行い、自分で考えた学習が定着するようにする。</p> <p>□「さわやか大作戦」を通してメディアとの付き合い方、時間の使い方を指導する。</p>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<p>○地域の行事に参加する児童が多い。</p> <p>○夕食を家の人と一緒に食べている児童の割合が高い。</p> <p>●家の手伝いをしていない児童の割合が低い。</p> <p>●家で家族に学校の話をしていない児童の割合が低い。</p>	<p>□手伝いや家族のコミュニケーションの大切さをお便り等で伝える。</p> <p>□地域をとりあげた学習活動の中に自分事として考える場面を取り入れる。</p>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立瀬分小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

4年生は、国語・算数ともに、全国平均正答率・市平均正答率を大きく上回っている。5年生は、国語・算数ともに、全国平均正答率・市平均正答率を大きく下回っている。6年生は、国語・算数ともに全国平均正答率・市平均正答率を大きく下回っており、県平均正答率を下回っている。

国語・・・各学年ともに「漢字・ことわざ」等基本的な言葉の問題については力がついているが、「読むこと」「書くこと」に課題が見られた。  
算数・・・問題の読み取りや記述式の問題等「思考・判断・表現」に課題が見られた。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きや言葉の学習の力はついてきている。 ○物語や説明文の内容を読み取ったり、中心となる語を見つけて要約したりする力がついてきている。 ●指定された長さで文章を書いたり、情報を関係づけながら考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いたりすることに課題がある。	□内容を工夫した条件作文を継続的にを行い、短時間で適切な文章を書く力をつけていく。 □より発展的な問題を取り上げて、読解力や言葉の力を伸ばしていく。
	5年	○ことわざの意味や漢字辞典の使い方について理解してきている。 ●書くことには慣れてきているが、段落を意識し、内容の中心を明確にしながらかくことに課題がある。 ●時間内に問題を最後まで解くような時間配分や粘り強く考えることが必要である。	□初めて読む読解問題でも正確に読み取れるように、宿題や朝活動等で、いろいろな文章を読み、要点をつかむなどの力をつけていく。 □内容を工夫した条件作文を継続的にを行い、短時間で適切な文章を書く力をつけていく。
	6年	○言葉の特徴や使い方に関する事項、読むことに関する内容については力がついてきている。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。 ●文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることに課題がある。	□情報を活用して解く問題に継続して取り組み、問題の解き方に慣れるようにする。 □他の教科や総合的な学習の時間で資料活用する場面を設定して力をつけていく。
算数	4年	○基本的な技能が身につけている。 ●発展的な問題での題意を正確に読み取ること課題がある。 ●小数の引き算(筆算)での位取りの誤答が多い。	□問題文での条件と問われていることを自分で整理して読み取る習慣をつける。 □発展的な問題に取り組んだり、学んだことと生活場面を結び付けて考える機会を設けたりする。
	5年	○基礎的な計算の力はついてきている。 ●図形領域、分数の大きさ、概数の表し方、グラフの読み取りの理解に課題がある。 ●文章題などの情報量の多い問いの意図を理解することに課題がある。	□朝活動等で、マス計算等に継続的に取り組み、基本的な計算の力をつける。 □宿題の内容を吟味(既習学年のものも含めて)し、基礎的な知識・技能の定着を図る。
	6年	○図形領域の力がついてきている。 ●データの活用(グラフを見て説明を書く)の理解に課題がある。 ●問題の題意を正確に読み取ること、式や言葉を用いて記述することに課題がある。	□算数以外の社会や理科の学習でも、意識してデータを活用する力をつけていく。 □問題文をしっかりと読み込み、求め方や理由を式や言葉等を使って表す学習を計画的に行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業中に、教師や友達の話をしっかり聞き、わからないところについて先生に質問している児童が多い。 ●自分によいところがあると思っている児童の割合が低い。 ●国語・算数について、苦手意識をもっている児童の割合が高い。	□自分や友達のよさを認め合える学習集団作りを工夫していく。 □自分の考えをまとめ、伝え合うことや、活動を振り返る機会を多く設定する。 □活動への取組のよさや成長したところなどを具体的にほめる機会を増やす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家の人に言われなくても進んで学習している。 ●決められた学習以上に自分で計画を立てて学習している児童の割合が低い。 ●家庭学習の目標時間に満たない児童が多い。	□目標の家庭学習時間に取り組めるように、宿題の質や量を学校全体で共通理解したり、年3回の「さわやか・つじんウィーク」の際に家庭学習への意欲を高めたりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家の手伝いをしている児童が多い。 ●就寝時刻が遅い児童の割合が高い。 ●メディアの利用時間が長い。	□授業公開の際によりよい生活習慣の大切さについて学ぶ授業を行うなど、睡眠や生活習慣、メディアの視聴についての学習を積極的に行い、家庭と連携して取り組む。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立国富小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 授業や課題に意欲的に取り組もうと意識している児童が多い。
- 4年生・5年生ともに算数は概ね良好な状況である。
- 国語では、どの学年も、条件付き作文等で自分の考えを書くことに課題がある。
- どの教科においても、情報の全体像をとらえ、その中から必要なものを取捨選択したり、問題文の題意を正確に捉えたりすることに課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きの基礎的な力や言葉の理解が身に付いてきた。 ○話の内容の聞き取りは概ねできてきている。 ○説明文・物語文の内容の読み取りは概ねできてきている。 ●話し手の意図や工夫を捉えることに課題がある。 ●物語文で人物の気持ちの変化を読み取ることや説明文のキーワードを見つけて要約することに課題が見られる。 ●「決められた条件で文章を書く」「調べたことをもとに文章を書く」などの活用に課題がある。	□授業で効果的に説明や理由を述べたり書いたりする学習活動を取り入れる。 □文章を読んだり話を聞いたりするときに、大事なことを見つけて要約する活動を意図的に増やし、情報を整理する力をつける。 □家庭学習で説明文や物語文の課題プリントを定期的に出し、文章の叙述に即して読み取る力などを高めていく。 □朝学習等で、条件付き作文を書く活動を継続的に取り入れる。作文のきまりの定着を図るとともに、時間を意識して書く活動を行う。
	5年	○話の内容を正確に読み取る力が優れている。 ○ことわざの意味や漢字辞典の正確な使い方が身に付いている。 ●連用修飾語の働きについての理解が不十分である。 ●題意を正確に読み取り条件付き作文を書くことに課題がある。 ●設定時間を意識して問題に取り組むことに課題がある。	□宿題で物語文や説明文の課題プリントを定期的、継続的に出し、叙述に即して読み取る力を高めていく。 □文章を読み大事なことを見つけて要約し、整理した情報を活用してまとめていく活動(新聞づくり等)を積極的に行う。 □単作文を書く活動を取り入れ、作文の決まりの定着を図るとともに時間内に書く力をつけていく。
	6年	○送り仮名を正しく使うことができている。 ○身近なテーマについて書かれている内容を読み取ることができている。 ○複数の条件の中から1つを満たして書くことはできるようになってきた。 ●相手の意図を読み取ることが課題が見られる。 ●複数の条件付き作文を書くことに課題が見られる。 ●言語理解に課題が見られる。	□目的や相手の意図、要旨を考えながら、文章を読み取る力を付けるために、いろいろな文章を読み取る機会を朝学習や家庭学習に継続して取り入れる。 □語彙を増やし、正しい意味や使い方を身に付けるために、国語辞典や教科書巻末等を活用する。 □時間を意識し、複数の条件付きの短作文を書く活動をいろいろな場面で取り入れる。
算数	4年	○基本的な計算問題を解くことができている。 ●長さ、重さ、かさ、時間で異なる単位が混ざる計算問題に課題がある。 ●乗法の分配法則の理解に課題がある。 ●問題を正確に読んでいない傾向が見られる。	□単位換算表の掲示等を通して、単位の関係の理解を深める。 □時刻と時間、距離と道のり等の文章題の読み取りに力を入れる。 □問題文をイメージする力を育てる。(教科書や市販テストに載っている図がなくても「あの問題のことだな」と分かるように、関連付ける。) □問題の概要をイメージできるようにするため、イラストや映像などで視覚的な支援を行う。
	5年	○基礎的な四則計算や計算の順序に関する技能が高い。 ○伴って変わる2つの数量関係を適切に捉えることができている。 ●整数や小数、分数の大小関係を捉えることに課題がある。 ●図形についての意味や性質に対する理解に課題がある。 ●題意の正確な読み取りや自分の考えの言語化、制限時間の見通しに課題がある。	□位取表を用いながら数の大小関係に対する認識を深める。 □教具や具体物を活用して、角や図形に対する見方・考え方を働かせる。 □授業で「求めなければならぬ」ところはどこなのか、意識させる。 □学習の状況に応じて、解答時間に制限を設けて時間内で解く感覚を醸成する。 □普段の授業から自分の考えを説明できるよう言語化する活動を設定する。
	6年	○基礎的な計算力はある。 ●百分率の意味理解や二次元表の見方の理解が弱い。 ●変化と関係、量と測定の領域の基礎が十分ではない。 ●記述式の問題や思・判・表の力を求められる問題がかなり弱く、またオープンエンドの問題にも慣れていない。 ●情報を正確に把握する力が弱く、問題が理解できていない。 ●式と図、言葉をつなげて考える力が弱い。	□自分の考えを持ち、図や式、言葉でノートに書いたり、それをペアやグループで学び合う活動を積み重ねる。 □友達考えた図を式に表すなど、様々な考え方を図と式と言葉でつなげて考える活動を授業の中で大事にしていく。 □複数の考え方ができる課題に取り組む機会を意図的に作る。 □基礎的な知識技能の復習を積み重ねる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業中に相手の話を聞いたり、ノートをとったり、文章を書いたりする活動に意欲的に取り組む児童の割合が高い。 ●学習に、「図書館」「辞書」「新聞」を利用している児童の割合が低い。 ●話し合う活動を楽しんだり、考えを深めたり、生かしたりすることが苦手な児童が多い。また、学んだことを学習に生かしていない児童が多い。	□児童が、自分の考えをしっかりともち、それを伝え合う場を効果的に設定する。 □辞典や新聞に触れる機会を増やし、インターネットや図書館を利用した調べ学習にも力を入れ、まとめて表現できる場を設定する。 □間違いや分からないことを安心して伝え合うことのできる親和的・支持的学級づくりを目指す。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○宿題にきちんと取り組む児童の割合は高い。 ○規則正しい基本的な生活を意識して、生活しようとしている。 ●自分で計画を立てて勉強したり、予習や復習に自主的に取り組んだりする児童の割合が低い。 ●家庭学習の時間が短く、「参考書や問題集」「学習塾」を利用している児童が少ない。 ●メディアや遊びの時間を決めている児童の割合が低く、ルールを守っている割合も低かった。	□家庭学習の重要性や具体的な取組について家庭に伝え、家庭と協力して充実を図る。 □家庭学習や生活習慣の改善を図るため、学校から家庭に情報を発信し、生活習慣を定着させるための重点週間の取組を継続的に行う。 □タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習への改善に取り組む。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分が住んでいる地域のことが好きであると回答した児童の割合は全国平均と変わらない。 ●地域行事にすすんで参加している児童の割合は低く、地域をよりよくしていこうという意欲も低かった。	□地域学校運営委員会やコメン等、地域の関係機関と連携し、地域の「ひと・もの・こと」にかかわる機会を増やす。 □学校だよりや学級通信、学校内での掲示等で学校や学級の様子を児童、地域、家庭に発信し、地域や家庭との連携につなげていく。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立朝陽小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査

●4年生に関しては、国語は全国や市の平均を大きく下回り、算数は全国平均をやや下回り、市平均を下回った。(以下「平均」を省略)

○5年生国語に関しては全国と同程度、市をやや上回った。

●5年生算数に関しては全国や市を大きく下回った。

全国学力調査

○国語科に関しては、全国や県を大きく上回った。

●算数科に関しては、全国や県を大きく下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漢字やローマ字、主語と述語の定着。</li> <li>●文章の書き方(敬体で書くこと)への理解。</li> <li>●条件付き作文が無解答や誤答。</li> <li>●時間配分。最終問題での無解答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□漢字、ローマ字、文法は日常生活で活用する場面を意識する。小テスト、宿題プリント等を活用する。</li> <li>□一人で文章を読む力をつける。必要に応じて文章に線を引く、大切な言葉を囲む、言葉と言葉のつながりを書き込むなど文の意味を読み取る作業を取り入れる。</li> <li>□条件付きで文章を書く経験を増やす取組や日記や短文を取り入れる。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉の学習の定着。</li> <li>○記述問題、条件付き作文に無解答が少ない。</li> <li>●修飾語の理解に課題。</li> <li>●段落相互の関係を問う問題の誤答。</li> <li>●最終問題の無解答が2割。時間配分に課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□漢字、文法(修飾語)を日常生活で活用する場面を意識する。</li> <li>□普段から読むこと、聞くこと、書くことに慣れる。</li> <li>□一人で文章を読む力をつける。必要に応じて文章に線を引く、大切な言葉を囲む、言葉と言葉のつながりを書き込むなど文の意味を読み取る作業を取り入れる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○条件付き記述への正答。</li> <li>○無解答が少ない。問題への取組の姿勢。</li> <li>○●上位層と下位層の差。</li> <li>●「書くこと」について、全国、島根県との差。</li> <li>●グラフを読み取って記述する問題への正答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□聞く力、要約する力を育てる取組を継続して行う。</li> <li>□一人で文章を読む力をつける。必要に応じて文章に線を引く、大切な言葉を囲む、言葉と言葉のつながりを書き込むなど文の意味を読み取る作業を取り入れる。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表と棒グラフについての正答。</li> <li>●長さの問題で、道のりを求めることはできているが、どちらの方が短いかを問う問題での記述が無解答。</li> <li>●単位の仕組みで、m(ミリ)がつく長さ、かさを1,000倍することを理解している児童が25%。</li> <li>●□を使った式と文章を結びつけること。</li> <li>●無解答の数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□式や図などを用いて考え方をわかりやすく伝える場面を設定する。</li> <li>□記述問題に取り組む。(一人一人に考えさせる工夫が必要。宿題に出す、定着する時間を設ける、読む力を高める など)</li> <li>□出雲市授業スタンダードを活用し、ねらい、めあて及び授業でめざす姿(ゴール)を明確にした授業を行う。</li> <li>□既習事項の活用、授業と家庭学習(補充・発展問題)との連動を図る。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図形の問題。</li> <li>●平行・対角線の言葉の定義の理解。</li> <li>●複合図形の面積について言葉で表したり求めたりすること。</li> <li>●「計算しなくても5000円以上になることがわかるのはなぜか」を答える問題への無解答。設問の題意の読み取り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□式や図などを用いて考え方をわかりやすく伝える場面を設定する。</li> <li>□図形の問題に取り組む。</li> <li>□授業では、それぞれの図形の定義を知り、作図することで終わってしまった。実物に触れる、動かすなど作業的な活動を取り入れていく。</li> <li>□出雲市授業スタンダードを活用し、ねらい、めあて及び授業でめざす姿(ゴール)を明確にした授業を行う。</li> <li>□既習事項の活用、授業と家庭学習(補充・発展問題)との連動を図る。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形の問題で、ぱっと見て直感で答える問題。</li> <li>○データの活用。</li> <li>●数と式、図形の問題。</li> <li>●図形の性質を問う問題。</li> <li>●割合の問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□式や図などを用いて考え方をわかりやすく伝える場面を設定する。</li> <li>□記述問題を多く取り入れて、説明などを実際に描く機会を増やしていく。</li> <li>□出雲市授業スタンダードを活用し、ねらい、めあて及び授業でめざす姿(ゴール)を明確にした授業を行う。</li> <li>□既習事項の活用、授業と家庭学習(補充・発展問題)との連動を図る。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標や夢をもつ児童の割合が少ない。</li> <li>●算数や外国語を学ぶ意欲が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□児童が夢や目標をもてるようにするために、短期・長期目標を設定したり、将来について考えたりするキャリア教育の充実を図る。そして、道徳や総合、学活においては、課題を見つけ、協働して課題解決実践する力を高めるような授業を充実させていく。また、算数や外国語では、生活体験と結びつけ、学習と生活とのつながりを意識できるように授業改善を行っていく。併せて、普段の生活の中で「友達の良いところを少しでもまねてみたい」など、小さな目標を立て、その目標を達成した時の喜びを実感できるようにする。</li> </ul>
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題はきちんとやってくる。</li> <li>●自分から予習や復習をしたり、辞書で調べたりすることができていない。</li> <li>●読書や新聞を読んでいる児童の割合が少ない。</li> <li>●ICT機器を用いた自主学習をしている児童の割合が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭学習、自主学習の意義、取組方法を周知するとともに、見直しをもって取り組むことができるように計画や予定を立てさせる。</li> <li>□自分から学びたいという気持ちを大切にすることで、辞書でわからない言葉を調べたり、読書することで新しい知識を得たりできるようにする。また、タブレットの持ち帰りを段階的にやっていく。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家事を手伝っている児童の割合が少ない。</li> <li>●地域と関わりたいという気持ちや地域をよくしていこうとする気持ちが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□地域の教育資源の掘り起こし、教材化をすすめ、朝陽小の教材・資源としてまとめ、活用できるようにする。</li> <li>□地域のよさを感じられるように、地域の教育資源を積極的に活用していく。ゲストティーチャーを招いたり、地域に出かけ直接体験をしたりすることを通して、児童が地域の良さに気づいたり、憧れを抱いたりできるようにしていく。</li> <li>□地域のよさ、価値を言葉、文章などで表現し、発信する機会を設ける。</li> </ul>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>4年生は、国語、算数とも全国平均正答率と同程度で、おおむね良好な状況と言える。          ○主体的に学習に取り組む態度が全国平均正答率より高いポイントを示している。          ●国語では、「我が国の言語文化に関する事項」に課題がある。          ●算数では、「足し算、引き算」に課題がある。</p> <p>5年生は、国語、算数とも全国平均を下回る。          ●国語は、「話し合いの内容を聞き取る」と「漢字を書く」「我が国の言語文化に関する事項」また、「思考・判断・表現」の観点にも課題がある。          ●算数では、「数と計算」領域、「知識・技能」の観測のポイントが低い。</p> <p>6年生は、国語は、全国平均正答率を上回っている。算数については、全国、県の平均より下回る。          ●文章や図表、グラフを読んで自分の考えをまとめることに課題がある。          ●図形の問題に課題あり。記述式の問題についても平均が低い。</p>
---

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話の内容を聞き取ることは課題である。</li> <li>●調べたことを元に文章を書く設問や我が国の言語文化に関する事項の正答率が全国より低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□教師の話聞き取り、メモをする。</li> <li>□新聞記事や本、コラム等を読み、段落、文字数を指定して、要約する。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を読む設問は、ポイントが高かった。</li> <li>●漢字を書くことに課題がある。</li> <li>●学校を紹介する新聞つくりの設問は、全校平均を大きく下回る。</li> <li>●文章を書く項目も正答率が低調であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□漢字ドリルやドリルノートでの新出漢字習得を図る。</li> <li>□多くの文章にふれ、要約をしたり、自分の考えをもったりする活動を取り入れる。</li> <li>□自分の意見、思いを文章にする作業を授業で重視する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の送り仮名の問題は、全員が正答している。</li> <li>○目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することが得意である。</li> <li>●原因と結果など情報と情報の関係についての理解を問う問題の正答率が低い。</li> <li>●文章を読み、理解したことに基づいて自分の考えをまとめる問題が県・全国平均正答率を大きく下回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□速読の力をつける。</li> <li>□説明文を題材に情報や統計を根拠に要約する活動を取り入れる。</li> <li>□多くの文章にふれ、要約をしたり、それについての自分の考えをもつ活動を取り入れる。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な計算力が高ポイントで良好。</li> <li>○「表とぼうグラフ」の正答率がと高い。</li> <li>●足し算、引き算は、全国と比べ多少ポイントが低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□今まで通り、既習事項の復習を続けておこなう。</li> <li>□ICTを活用した授業効果をおおいに継続する。</li> <li>特に、タブレットを活用した授業形態を引き続きおこなう。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的に市・全国の平均を下回り、課題がある。</li> <li>●4年時に学習した「億と兆・概数の表し方」では、標準スコアが市・全国平均よりかなり低く、特に復習の必要がある。</li> <li>●「数と計算」の割り算や計算の決まり等、基本的な計算の習得にも課題が残っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□算数の時間に復習を兼ね前学年の問題を解いたり、基本的な計算問題をおこなったりする。</li> <li>□タブレットを使い、復習を多くおこなう。</li> <li>□朝活動や放課後学習の時間に、個別指導、補充学習をおこなう。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伴って変わる二つの数量の変化や数を読み取ることができる。</li> <li>●三角形の面積と底辺の関係が言葉や数で記述できにくい。</li> <li>●百分率で表された割合の問題の正答率が極めて低い。</li> <li>●示された日常生活を元に小数の加法や乗法を用い、答えや式を記述、判断する問題が県・全国平均正答率を大きく下回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□図形の問題を基礎から復習し、理解を深めていく。</li> <li>□百分率の概念、用語について放課後学習等で学び直す。</li> <li>□生活場面にある数量に結び付けて考える課題を設定する。</li> <li>□言葉、式、図を使って考え、説明をする活動を増やし、応用力につなげる。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝自習や書き取り会、計算会の実施により、漢字や言語に関すること、基礎的な四則計算の習得率が高い。</li> <li>●文章を読み、要旨をつかむことや自分の考えを述べることに困難さを示す児童が多い。</li> <li>●新聞の記事を読まない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速読の練習を重ねて読解力を高める。</li> <li>・記事や事柄に対する自分の考えをもつことに慣れることをねらいとして授業で新聞を活用する。</li> <li>・資料、情報源としての図書館を有効活用し、授業に取り入れる。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家の人から言われなくても進んで勉強している児童の割合が低い。</li> <li>●家庭での勉強にPCやタブレットを利用していないと回答している児童が多い。特に6年生は、学校以外で英語の音声を開いたり、話したりする機会が極めて少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に家庭学習のねらいや取り組み方について改めて説明し、理解と協力を求める。</li> <li>・タブレットを家庭に持ち帰らせ、おおいに活用させる。</li> <li>・外国語活動の学習展開の見直し、指導員との打ち合わせを精選し、深める。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の決まりを守ることにについては、大多数の児童が守っている。(4・5年生)</li> <li>○夕食を摂ることや家族と一緒に食べることについてはたいへん望ましい傾向にある。</li> <li>●日常、新聞を読む児童の割合が少ない。</li> <li>●就寝時間が遅い児童も学年が上がるにつれて、増えている。</li> <li>●自分で時間を決めてテレビを見る児童の割合かなり低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとの関わりについては、学級活動や道徳を中心に、継続的に指導を行う。また、保護者対象の研修会を開いて啓発をする。</li> <li>・就寝時間は、「多伎っ子ウイーク」の取り組みを効果的なものにし、改善を図る。</li> </ul>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語の漢字の読み書き、言葉の学習に関する内容の正答率が、やや及び大きく上回ることから、指導の成果が表れていることがうかがえる。
- 学習状況調査の結果、教科の学習が大切である、学んだことを生かそうとしているなど、学習に主体的に取り組もうとする回答の割合が全国を上回っている。
- 国語、算数ともに、自分の考えを文章にしたり、求め方を説明したりする問題に課題がある。
- 教科や領域、観点別に見ると、学年により課題が異なる。児童の実態に応じた授業改善が求められる。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○教科の正答率が全国平均正答率よりもやや上回っている。活用問題については大きく上回っている。 ○漢字を書く、言葉の学習に関する領域が、全国平均正答率よりも大きく上回っている。 ●叙述を基に内容を読み取ることに課題がある。 ●条件に従って文章を書くことに課題がある。	□文章を読んで内容を捉えることができるよう、文章を読んで考える学習を授業や家庭学習で取り入れる。 □条件に従って考える場面を、授業や家庭学習で取り入れる。
	5年	○教科の正答率が全国平均正答率と同程度である。 ○漢字を読む、言葉の学習に関する領域が、全国平均正答率よりもやや上回っている。 ●叙述をもとに、文章や段落相互、複数の情報の関係を捉えることに課題がある。 ●条件に従って文章を書くことに課題がある。	□段落の構成や登場人物の気持ちの変化を意識して読み取る指導を重ねる。 □条件に従って書く活動を、授業や家庭学習で取り入れる。
	6年	○漢字を書く、言葉の学習に関する領域の正答率は、全国平均正答率よりも大きく上回っている。 ○話すこと・聞くことの領域の正答率が、全国平均正答率よりもやや上回っている。 ●書くことにおいて、文章と資料を結び付けて必要な情報を読み取ったり、読み取ったことと自分の考えを関連付けて書き表したりすることに課題がある。	□文章や資料を読み取る際に、関連する語句や資料などを線で結ぶなど、可視化しながら読み取る方法を指導する。 □新聞記事などを活用し、資料などから分かったことと自分の考えを関連付けて書く活動を家庭学習で取り入れる。
算数	4年	○教科の正答率が、基礎・活用共に全国平均正答率よりも大きく上回っている。 ●計算の意味を理解したり、円や球、長さや重さについて考えたり、説明したりすることに課題がある。	□数や図形、量に関する感覚を豊かにするために、教材の提示を工夫したり、具体物を用いた算数的活動を取り入れたりする。 □必要な情報を取り入れて、分かり易い説明をすることができるよう、繰り返し指導する。
	5年	○グラフの読み取りは、全国平均正答率と同程度である。 ●教科の正答率が、全国平均正答率よりも大きく下回っている。 ●図形の特徴を言葉からイメージして捉えることに課題がある。	□過去に学習した解き方を応用して、必要な情報を図や数直線を用いて立式できるように指導する。 □基礎・基本の定着を図るために、毎週、計算会を実施する。
	6年	○計算やグラフの読み取りの正答率は、全国平均正答率よりも大きく上回っている。 ●図形の意味や性質の理解に課題がある。	□図形領域を含め、既習事項をより定着に近づけられるよう、授業や家庭学習で定期的な復習を行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「めあて」を明確にし、「振り返り」の児童の姿をイメージした授業を行うことにより、児童は主体的に学習しようとしている。 ○国語や算数の授業で、きちんとノートをとっていると答えている児童の割合が高い。 ●学習状況調査の結果から、学んだことが定着していない内容が見られる。	□単元を通して身につける力を明確にし、「振り返り」の児童の姿を具体的にイメージした「めあて」を設定して、日々の授業を行う。 □学習したことを他教科で活用したり、既習内容を繰り返し指導したりすることにより、定着を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家で自分で計画をたてて勉強をしていると答えた児童の割合が高い。 ○音読や宿題、自主学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●家庭学習や読書の取組に個人差がある。	□学んだことが定着するために宿題の内容を工夫したり、目的意識をもって取り組むことができるような自主学習の仕方を指導したりする。 □家庭と連携して読書に親しむことができるよう、親子で一緒にする「家庭読書」の取組を全校で行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の「ひと」「もの」「こと」を活用した学習に意欲的に取り組む。 ○地域の行事に参加するなど、すすんで地域に関わろうとする児童が多い。 ○すすんであいさつをする児童が増えた。	□総合的な学習の時間や生活科等の学習において経験を豊かにし、情報を活用する活動を充実するとともに、国語や算数の学習で学んだ力を生かすようにする。 □学習の様子を「学校・学級・学年通信」やブログで発信する。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>＜国語＞</p> <p>○4・5年生は全国平均正答率と同程度であり、6年生は、全国平均正答率を大きく上回っていることから、基礎的な学力がついてきていると考えられる。</p> <p>●指定された条件に沿って、文章を書くことに課題がある。書く領域での無解答率が高い。</p> <p>＜算数＞</p> <p>○4年生は、全国平均正答率をやや上回り、5・6年生は、全国平均正答率と同程度であることから、基礎的な学力がついてきていると考えられる。</p> <p>●学習したことを活用して、数や式を用いて説明することに課題がある。</p> <p>●個人差が大きい。</p>
---

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きや、言葉の使い方に関する事項の正答率が高い。</li> <li>○説明文に書かれている内容をよく理解している。</li> <li>●物語文を読み取ることに課題がある。</li> <li>●情報をもとに、文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□物語文の叙述から、登場人物の心情を読み取ることを繰り返し行う。</li> <li>□自分の考えをもち、根拠をノートに書いたり説明したりする活動を設定する。</li> <li>□情報や問題を繰り返し読み、意味を考えたり、複数の情報をつなぎ合わせて考えたりする活動を設定する。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語文や説明文の内容を読み取ることがよくできている。</li> <li>○●ことわざ、漢字辞典の使い方は、全国平均正答率を大きく上回る。しかし、分からない言葉があれば辞書を引いていると回答している児童の割合は低い。</li> <li>●読み取った内容についての自分の考えを書くことでの正答率が低く、無解答率が約2割である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□物語文では、自分の考えを根拠を明確にして書く機会を増やす。</li> <li>□説明文では、段落相互の関係に注目し、説明の工夫を考えるようにする。</li> <li>□文章を書く際には、時間設定をし、時間内に考えをまとめるようにする。</li> <li>□分からない言葉があれば辞書を使って調べるように指導する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を正しく読んだり書いたりすることができる。</li> <li>○文章に書かれている大体的内容を読み取ることができる。</li> <li>●指定された条件に沿って、文章を書くことに課題がある。書く領域での無解答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□文章を読む場合、自分の考えの根拠を明確にして書く活動を繰り返し行う。</li> <li>□日記や作文の際にテーマを設定し、条件に沿って書くことができるようにする。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な計算問題を正しく解くことができる。</li> <li>●時刻と時間、長さ、重さの単元で、単位の換算の正答率が約4割である。</li> <li>●数や式を使って説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□単位の換算については、生活と結び付けて考えさせ、繰り返し問題に取り組むようにする。</li> <li>□授業の中で、学習した言葉や式を用いて最後まで説明できるようにする。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な計算問題を正しく解くことができる。</li> <li>●はがきのおよその面積など数量をイメージすることに課題がある。正答率は約3割である。</li> <li>●2つのものの数量関係を考えることに課題がある。</li> <li>●数や式を使って説明することに課題がある。</li> <li>●個人差が大きい。時間内に終わらなかった児童が約2割。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□数字の操作だけでなく、生活と結び付けて考えることを繰り返し行う。</li> <li>□数直線、図、表、言葉の式などを使って複数の数量関係を捉えられるようにする。</li> <li>□授業の中で、学習した言葉や式を用いて「説明しきる」活動を繰り返し行う。</li> <li>□時間設定をし、集中して問題に取り組むようにさせる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な計算問題を正しく解くことができる。</li> <li>●問題場面から総合的に考えて問題を解くことに課題がある。</li> <li>●数や式を使って説明することに課題がある。</li> <li>●個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□自分の説明を実際に言葉や数を使って書く時間を設定する。説明を紹介し合うことで、必要な語句を使い、論理的にわかりやすく説明ができるように指導する。</li> <li>□習熟度別の学習で、個に応じた指導をする。</li> <li>□時間を決めて、集中して問題に取り組むようにさせる。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思うと回答した児童の割合が高い。</li> <li>●自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと回答した児童の割合が低い。</li> <li>●国語、算数、英語が好きだと回答した児童の割合が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□校内研究で説明文を取り上げて授業研究をし、「自ら考え、伝え合い、深め合う力」を育てるための授業改善を行う。</li> <li>□少人数の中で自分の考えを伝える機会を増やし、発表への意欲を高められるようにする。</li> <li>□相手意識をもち、自分の考えを整理して説明をする活動を行い、聞き手は助言や提案をしたりする活動を行う。</li> <li>□各教科で、興味、関心を高める導入の工夫をし、みんなで学ぶ楽しさが味わえる授業を目指す。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語や算数の宿題をきちんとしていると回答した児童の割合が非常に高い。</li> <li>●家庭学習を1時間以上する児童の割合が全国平均より低い。</li> <li>●予習をしていると回答した児童の割合が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業と結びついた効果的な家庭学習になるように内容を工夫する。</li> <li>□必要性のある自主学習に取り組むことができるように、家庭と連携を図りながら継続的に指導する。</li> <li>□自主学習内容については、学年に応じて具体的に指導する。予習の仕方についても指導する。</li> <li>□家庭学習の時間を意識して、取り組むように指導する。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の行事に参加している児童の割合が全国平均を大きく上回っている。</li> <li>○朝食や夕食を家族と一緒に食べていると回答した児童の割合が高い。</li> <li>●新聞記事を読んでいる児童の割合が低く、全国平均と比べても10ポイント以上低くなっている。</li> <li>●自分で時間を決めてテレビを見ていると回答した児童が約4割である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活科や総合的な学習の時間等において、引き続き地域のひと・もの・ことに関わる学習を進め、児童のふるさとへの愛着を育む。</li> <li>□学校の課題等で新聞記事を読んで必要な情報を抜き出したり、感想をまとめる学習に取り組む。</li> <li>□メディアを適切に使用できるよう、児童の実態に沿った授業を各学年で工夫して行う。</li> </ul>

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>【国語】○漢字を読み書きする力は全国・市の平均正答率と差は見られない。 ●条件に合わせて文章を書くこと、原稿用紙の使い方に課題がある。</p> <p>【算数】○四則計算の基礎基本は全国・市の平均正答率と差は見られない。 ●図形や応用問題を解く力に課題がある。</p>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○聞き取りについての正答率が全国平均正答率と同程度。 ○叙述をもとに文章の内容を捉えることができる。 ●主語と述語、ローマ字等の「言葉の学習」の正答率が約5割。 ●条件付き作文への無解答が3割見られる。	□主語と述語、ローマ字等の「言葉の学習」をプリント等で継続して反復練習を行う。 □原稿用紙の使い方の指導を行い、子どもたちが興味をもって取り組めるような内容で、条件付きの短作文を書く時間を定期的に設ける。
	5年	○知識・技能については全国平均正答率と同程度。 ●書くことに関する問いの無解答が3割程度見られる。 ●国語に関する意欲が低い。	□段落を意識して文章を書くように日記や作文で継続的に指導する。 □自分の考えや理由を事例に入れて、ノートを書くように指導する。 □新聞記事を読んだり、クロスワードなどをしたりする機会を設ける。
	6年	○全国・県・市の平均正答率を上回っている。 ○大切な部分を抑えて読んだり、漢字の使い分けをしたりする力が身に付いている。 ●資料を読み取り、条件に合わせて書く力に課題がある。	□多様な条件(資料から読み取る・資料の中の言葉を使う・読み手を意識するなど)の短作文を書く時間を設ける。 □シンプルプレゼンを活用する。
算数	4年	○四則計算は定着しており、全国平均正答率と差は見られない。 ○正三角形の作図は全国平均正答率を上回っている。 ●大きい数・小数・分数が全国平均正答率をやや下回っている。	□発展問題プリントを用意したり、教科書の「補充の問題」に取り組んだりする。 □数の組成を理解させるために、数値を小さくしたり、具体物や日常生活を想起したりする支援を行い、理解を深める。
	5年	○市の平均正答率とほぼ同等の結果である。 ○データの活用「折れ線グラフ」では、全国・市の平均正答率を大きく上回っている。 ●分度器を使った角度の読み取り、分数の大小比較、計算のまきりに課題がある。	□基礎基本を丁寧に抑えながらさらに定着を図り、多様な問題にも取り組ませる。 □分度器を使った角度の読み取り、分数の大小比較、四則計算など、どの単元も前の学年からのつながりを考えた学習を進める。
	6年	○県・市の平均正答率を上回り、全国平均正答率とも差は見られない。 ○基礎基本は定着している。 ●図形や割合の問題の理解に課題がある。	□図形や割合の学習の際に基礎基本を丁寧に抑える時間をもち、定着を図る。 □授業や家庭学習において複数の情報から選択する問題に取り組む。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○どの学年も、教師の話聞き、きちんとノートにとることを意識している児童が全国の平均をやや上回っている。 ○どの学年も、話し合いで自分の考えを積極的に話し、相手の話をしっかり聞いている児童の割合が全国平均より上回っている。 ●どの学年も、授業でわからないことを先生に質問することが全国平均を下回っている。	□国語・算数の授業を中心に、視点を明確にしたペアやグループでの話し合い活動を継続して取り入れる。 □話し合い活動の中で「わからなかったこと・難しかったこと」を取り上げ、全体に広げるなど、質問がしやすい雰囲気づくりを行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○どの学年も、宿題をきちんとしている児童の割合が全国平均をやや上回っている。 ○家の人から言われなくても、進んで勉強している児童の割合が全国平均を上回っている。 ●新聞や本を読む児童の割合が全国平均を下回っている。 ●家庭学習にパソコンや参考書を利用している児童の割合が全国平均を下回っている。	□司書教諭と連携を図り、親子読書の推進をしたり、新聞記事を活用したワークシートに取り組んだりする。 □家庭学習にタブレットを取り入れ、学校からの持ち帰りを推進し、保護者への協力をお願いする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校での出来事を家の人に話したり、家の人に挨拶をしている児童が全国平均と同程度である。 ○家の手伝いをする児童の割合が全国平均と同程度である。 ●地域の行事に参加している児童の割合が全国平均を大きく下回っている。	□生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域の良さを学び、自分が地域や社会に貢献できる方法を見つける。 □学習ボランティアや登下校の見守りをしてくださっている地域の方と継続して関係を保てるように、お礼の会などを開き、親交を深める機会を設ける。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立遙堪小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生は、国語、算数ともに、市平均正答率、全国平均正答率を大きく下回った。
- 5年生は、国語では、市平均正答率、全国平均正答率をやや上回った。算数では、市平均正答率をやや上回った。
- 6年生は、国語では県平均正答率、全国平均正答率を下回った。算数では、県平均正答率、全国平均正答率を大きく下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○ローマ字の読みが全国平均を上回っている。 ●全ての観点別評価項目で市・全国平均正答率を下回っている。「情報の扱いに関する事項」「書くこと」については大きく下回っている。 ●記述式の問題の正答率が、市・全国平均正答率下回っている。	□三行日記に取り組み、書くことの指導を繰り返し行う。 □新聞の記事を読んで自分の考えをもったり、必要な情報を読み取ったりする機会を増やす。 ・読む→要約する→伝える(話す・書く)をセットにして取り組む。 ・引き続き書取会に取り組む。
	5年	○領域別評価項目「情報の使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で全国平均正答率を上回っている。 ●領域別評価項目「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均正答率を下回っている。 ○問題の内容別評価項目「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「言葉の学習」「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」「学校を紹介する新聞を作る」「文章を書く」で、全国平均正答率を上回っている。 ●問題の内容別評価項目「漢字を書く」で、全国平均正答率を下回っている。	□本・新聞記事などを読む機会を増やし、言語の特徴や使い方の習得を目指す。 □同音意義語等の漢字について補充学習の時間(わくスタ)を活用したり、宿題で実施したりして学習する。
	6年	○漢字の読み書きについては、県平均正答率・全国平均正答率を上回っている。 ○領域別評価項目「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」で県平均正答率を上回っている。 ●領域別評価項目「情報の扱いに関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」で県平均正答率・全校平均正答率を下回っている。	□情報を関連付けながら読む、理解する学習の場を設定する。 ・要約学習に取り組む。 □文章(長文)を読む機会を増やしたり、本や新聞記事などに触れる機会を増やしたりして、限られた時間で読み、内容を理解する学習を継続する。
算数	4年	●全ての領域別評価項目で市・全国平均正答率を下回っている。 ●かけ算の問題が全国平均正答率を大きく下回っている。	□基礎となる計算力を身に付ける。 ・個人差に応じた個別支援を行う。補充学習の時間(わくスタ)を活用し、繰り返し取り組む。 □イメージしやすいように具体物やICTを活用し、理解を深めるとともに、意欲向上を図る。 □学習の足跡が分かる教室掲示を行い、既習事項が確認できるようにする。
	5年	○領域別評価項目「数と計算」「変化と関係」で、全国平均正答率を上回っている。 ●領域別評価項目「図形」「データの活用」で、全国平均正答率を下回っている。 ○問題の内容別評価項目「わり算・計算のきまり」「分数」「簡単な場合についての割合」で全国平均正答率を上回っている。 ●問題の内容別評価項目「億と兆・概数の表し方」「小数」「いろいろな形」「面積」「角の大きさ」「変わり方調べ」「折れ線グラフと表」で、全国平均正答率を下回っている。	□図形の特徴や作図について、補充学習の時間(わくスタ)を活用して学習する。 □小数の計算の考え方について、補充学習の時間(わくスタ)を活用して学習する。 □図形や小数、データを扱う単元で、何ができて何ができないのか担任、児童ともに認識して学習を進め、定着を図る。
	6年	○領域別評価項目「図形」で県平均正答率をやや上回っている。 ○問題の内容別項目「割り算」「割合」で県平均正答率・全国平均正答率をやや上回っている。 ●領域別評価項目「数と計算」「データの活用」で県平均正答率・全国平均正答率を大きく下回っている。 ●記述式の問題の正答率が低い。	□基礎となる計算力を身に付ける。 ・個人差に応じた個別支援を行う。補充学習の時間(わくスタ)を活用し、繰り返し取り組む。 □数量関係について、図や表を用いて説明をする学習を意図的に取り入れる。 ・図や表に表す、図や表、式などを用いて説明する、答えを導き出す過程を大切に学習する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「国語や算数の宿題はきちんとしている」と答えた児童の割合は、どの学年も高い。 ○「授業中、話し合いで相手の話をしっかりと聞き取っている」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。 ●「学習した内容について、分かった点や分からなかった点を見直し次の学習につなげている」と答えた児童の割合は、全国平均を下回っている。 ●「新聞記事を自分の考えと比べながら読んでいる」と答えた児童の割合や、辞書の活用、学習での図書館利用の割合は、全国平均を下回っている。	□習得・活用・探究の過程を意識して単元を構成する。 □めあて・まとめ・ふりかえりを意識した板書型指導案を用いて、授業改善に取り組む。ふりかえりの視点を明確にし、学習改善につなげる。 □学校図書館を活用した学習や要約学習に取り組む、文章を構造的にとらえる力や情報活用能力の向上に生かす。 □個に応じた支援(発展的な学習・既習事項の復習など)に積極的に取り組む。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「家の人に言われなくても進んで勉強している」「自分で勉強の計画をたて、勉強している」「勉強するときは集中して勉強している」と答えた児童の割合は、どの学年も全国平均を上回っている。 ○「授業で学んだことを使って、家で同じような問題に取り組んだり、新しい問題に取り組んだりする家庭学習をしている」と答えた児童の割合は、どの学年も全国平均よりも高い。 ●「大事などころはどこかを考えて勉強している」と答えた児童の割合は、全国平均を下回っている。 ●家庭での読書の時間は全体的に少ない。	□「家庭学習パワーアップ週間」を活用し、定期的に家庭学習を振り返る機会を設けたり、家庭学習の手引きを見直しをしたりしながら、学習改善を促す。 □児童のノートにコメントを入れて掲示したり、互いの学習ノートを見合う時間をもつようにしたりすることで、児童自らの学習改善に生かす。 □週末の家庭学習で新聞ワークの課題に取り組み、内容に応じて朝の会やスピーチなどで取り上げる。 □個の弱みに合わせ、課題の内容・出し方を工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合は、どの学年も全国平均を上回っている。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたい、何をしたらよいか考えることがある」と答えた児童の割合は、どの学年も全国平均を大きく上回っている。 ●「自分で時間を決めてテレビを見ている」など、どの学年もメディアとの付き合い方に課題がある。	□地域行事を取り扱った学習を行うとともに、コミセン等と連携をはかりながら、地域行事への参加を呼びかけていく。 □「チャレンジ週間」に合わせ、睡眠やメディアについて指導を続ける。あわせて家庭への啓発を行う。 □家庭における保護者の学習参加や関わり方について、学級通信、懇談等を用いて呼びかける。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荘原小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 第4学年は、国語において出雲市平均をやや上回っており、算数において出雲市平均と同程度である。
- 第5学年は、国語、算数において、出雲市平均を大きく下回っている。
- 第6学年は、国語、算数において、全国平均を大きく上回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○自分の考えや理由、事例を明確にして書くことにおいて、全国正答率を大きく上回っている。 ●説明文から中心となる文を見つけることに課題が見られる。 ●主語、述語、段落の用語や意味を理解することに課題が見られる。	□朝活動などを利用して要約学習を取り入れる。 □既習の用語等の掲示物を工夫する。
	5年	○ことわざ・辞書の使い方はおおむね身につけている。 ○条件に合わせて自分の考えを書く問題の正答率は、全国平均と同程度である。 ●漢字の読み書き・文法の理解に課題が見られる。 ●文章の読解において、全体を読み込む力に課題が見られる。	□日頃のノート、作文、日記などで漢字を使えるように指導する。 □新聞の内容要約に継続して取り組む。
	6年	○漢字の基本的な力が身につけており、文脈に合った漢字を書くことができる児童が多い。 ○グラフを読みとる力や、必要な情報を読み取り、まとめる力が身につけている。 ○文章を要約する力が身につけている。	□社会科などの他教科とも連携しながら、情報を整理してまとめる学習を継続する。
算数	4年	○図形の作図の仕方が身につけている。 ○基本的な計算の仕方が身につけている。 ●図の意味を理解して活用することに課題が見られる。 ●式や言葉を組み合わせて説明することに課題が見られる。	□図を使って説明する学習を多く取り入れる。 □式や言葉を用いて説明できるよう、適用題を工夫したり、算数で用いる言葉等を掲示したりする。
	5年	○文章問題を表した数直線図を選んだり、図を使って立式したりする問題の正答率は、全国平均とほぼ同程度である。 ●答えを見積もって問題を解くことに課題が見られる。 ●図形の領域において、言葉から形をイメージすることに課題が見られる。	□文章問題では、見積もりをしてから解くように指導する。 □算数で用いる言葉を大切に授業の展開をする。
	6年	○記述式問題の正答率が全国平均を大きく上回っている。 ○最後の記述式問題でも無解答率が低く、根気強く問題文を読み、あきらめずに取り組む力がついている。 ●選択式問題で、言葉や式の意味を問われた時に、選択肢の意味に惑わされている児童がいる。	□算数で用いる言葉の意味を、複数の表現の仕方で見えるなどして、より理解を深める。 □意図的に選択肢を用意するなど、式の意味を問う場面を授業の中に取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」(4・5年)、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」(6年)に肯定的な回答をした児童が全国に比べて多い。 ●「本を読んでいる」「勉強に辞書を利用している」と回答した児童が少ない。	□自分の意見を伝えやすい雰囲気や、話し合う力をつける授業づくりを継続する。 □カリキュラム・マネジメントを意識し、図書館活用を計画的に実施する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立てて勉強している」に肯定的な回答をした児童が全国に比べて多い。 ●家庭学習の時間や、授業の予習・復習をすることに課題が見られる。	□家庭学習の手引きをもとに、自主学習のメニューやよい取組を紹介する。 □生活チャレンジ週間にあわせた家庭読書の取組を継続する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○第4・5学年において、「朝食は家の人と食べる」「学校での出来事を家の人に話す」に肯定的な回答をした児童が全国に比べて多い。 ○第6学年において、「朝食を毎日食べる」「毎日同じ時刻に寝る・起きる」に肯定的な回答した児童が全国に比べて多い。 ●「地域の行事に参加している」と回答した児童が少ない。	□生活チャレンジ週間の取組を継続し、そのねらいを家庭や児童に周知する。 □地域行事への参加を奨励する。社会科や総合的な学習の時間、生活科の学習でねらいを達成するのにふさわしいと考えられることは、地域行事との連携を図る。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立西野小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○国語において、漢字を書く問題での正答率が全国平均とほぼ同程度かやや上回っている。</p> <p>○国語において、物語又は説明文の読み取りに関わる問題での正答率が全国平均とほぼ同程度か上回っている。</p> <p>○算数において、基礎的な問題での正答率が全国平均とほぼ同程度か上回っていたため、基礎的な力がついている児童が多いと考えられる。</p> <p>●4・6年生の国語の「書く」領域について、何かしら記述しようとする意欲はあったが、考えを明確にし、読む相手に伝わるよう意識して書くことについて課題がある。</p> <p>●どの学年も、算数用語の正しい理解に課題があり、全学年で算数用語を正しく使って説明する内容において全国平均を下回る問題があった。</p> <p>●4・6年生で国語の漢字や算数の図形や公式などにおいて、基本的な既習事項の定着に課題がみられた。</p>
--

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○登場人物の気持ちを叙述を基に捉える問題や気持ちの変化について具体的に想像する問題において、全国平均を上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約したり、考えを明確にして書いたりする問題において、全国平均を大きく下回っている。	□説明文では、中心となる語や文の見付け方について、これまでに学んだ内容を確認しながら学習を進める。 □情報を整理して文章にまとめる学習は、社会科や総合的な学習の時間とも関連させ、学んだことが継続して生かせるよう計画的に行う。
	5年	○説明文を読み取る領域について、全国平均を上回っている。中でも要約する問題では、低学年から情報活用教育を計画的に行ってきた成果がみられる。 ●物語を読み取る領域について、全国平均を下回っている。 ●文章を書く領域については、全国平均を下回っている。特に、指定された長さで自分の考えをまとめることに課題が見られる。	□物語全体を捉えて人物の気持ちを読み取るために、普段から読書の習慣づけを行ったり、叙述をもとに読み取る活動を授業の中で丁寧に行ったりしていく。 □書くことについては、自分の考えをまとめて書く活動において、長さや使用する語句など、適度に条件をつけて書く場を設定していく。
	6年	○国語の学習で、大事なところやキーワードを見つけながら文章を読む指導を続けたことで、問いに適切に答えられている。 ●正しく送り仮名を付けて漢字を書くことについて、全国平均を大きく下回っている。 ●話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかという問いについて、全国平均を下回っている。	□新出漢字だけでなく、前学年までの既習の漢字に関わる課題を与え、漢字の定着を図る。 □授業において、児童の発言に対して教師が意図的に問い返しをしたり、その発言内容に関連して児童が発言できるよう促したりすることで、話し手が伝えたいことの中心をとらえられるようにする。
算数	4年	○知識・技能の観点で全国平均を大きく上回っている。毎月計算テストを行うことによって、基礎が定着している。 ●分数や円と球や三角形に関わる問題が全国平均を大きく下回っていることから、算数用語を適切に使って理由づけすることに課題がある。	□授業において、既習の算数用語の意味を確認しながら定着をはかる。また、それを適切に使うことを習慣づけていけるよう、児童の発言や記述について教師から働きかける。 □理由や根拠を文章化できるよう、自分の考えを書く時間や友達に説明する時間を確保する。
	5年	○折れ線グラフや表の問題での正答率が全国平均を大きく上回り、データ活用の領域に強みがみられる。 ●図形の性質に関わる問題において課題がみられ、図形の名前と性質が一致していないことが予想される。 ●大きな数の表し方に関わる正答率が全国平均を下回っている。	□図形学習においては、図形を見るだけでなく必ず自分で描く学習を行い、性質の理解につながるよう働きかける。 □家庭学習などで前学年までの復習問題などを取り入れ、既習事項のさらなる定着を図る。 □単元の学習に入る前に既習事項の復習を行い、新しい学習内容の定着を図る。
	6年	○記述式の問題については、問題によっては全国平均を大きく上回った。また、無解答が少なく、書こうとする意欲がみられた。 ●割合の理解や公式を使って計算する問題の正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●三角形の底辺と高さの関係に着目し、面積の大きさを比べることや、その理由について記述することに課題がある。	□授業では、算数で使う基本的な用語を用いて説明する場を意図的に設けたり、家庭学習に記述問題等を取り入れたりし、説明する練習に取り組む。 □宿題や授業などで、タブレットドリルを活用し、前学年までの復習や基本的な言葉や知識の復習に取り組めるようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○4・5年生で、「授業で話をしっかり聞いている」と回答した児童が全国平均を上回り、学習規律の定着がみられる。 ○5・6年生で、「将来の夢がある」と回答した児童が全国平均を大きく上回っており、4年生で自分の将来について考えた成果がみられる。 ●全学年で、「分からないことを質問できる」と回答した児童が全国平均を大きく下回った。また、考えが伝わるよう工夫して発表することに課題がある。 ●全学年で、「タブレットなどのICT機器を学習に頻繁に使用している」と回答した児童が全国平均や市平均を大きく下回った。	・授業中に質問する場を設けたり、質問できた児童を褒めたり、分からないことを聞くことができる雰囲気づくりに努める。 ・タブレットパソコンの活用方法について職員研修を行い、様々な授業の中で活用できるようにする。 ・聞き手が分かりやすい発表の仕方を児童が考えられるよう、日々の発表場面で話の組み立てや身振り手振り等の工夫を取り上げ、教師が具体的に褒めながら意識づけを図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○全学年で「自分で勉強の計画を立てて勉強している」と回答した児童が全国平均を大きく上回った。毎日の音読練習、自学などの家庭学習を記録することで、自分で計画を立てて取り組むことにつながったと考えられる。 ●全学年で「本を読んでいる」と回答した児童が全国平均を大きく下回った。 ●6年生では、「授業で学んだことを、他の学習で生かしている」と回答した児童が全国平均を大きく下回った。	・地域のボランティアと連携し、じっくり読める本の選書を行い、児童に紹介する機会をいっそう設けていく。 ・読書時間を確保するとともに、読書記録を記入するなど、本の内容を振り返る機会をとる。 ・授業の中で他教科との繋がりを意識できるような言葉がけを積極的に行い、児童が自主学習などでより深く調べてみたいと思えるよう働きかける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○4・5年生では「朝食を家の人と一緒に食べている」と回答した児童が全国平均を大きく上回った。保護者と話す機会が多いことで気持ちが安定し、何事も前向きに取り組むことができていると考えられる。 ●4・5年生では「家の手伝いをしている」と回答した児童が全国平均を大きく下回り、課題がみられる。 ●全学年で「地域の行事に参加している」と回答した児童が全国平均を大きく下回った。	・家庭科や体育の保健、学活の授業を中心に、家族が健康な生活を送るために自分のできることを考え、積極的に家の手伝いに取り組んでいけるよう働きかける。 ・総合的な学習の時間や社会科の地域教材の開発を通して、地域を誇りに思う気持ちを高めたり、様々な地域の方と児童との関係づくりに努めたりする。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立中部小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 漢字の読み書きや算数の基礎的・基本的な計算の力が身に付いている。
- 教師や友達の話をよく聞いて学習に取り組む児童が多い。
- 長文(説明文、物語文)など、叙述をもとに読み取ったり、条件に応じて文章を書くことや形式を意識して書くことに課題がある。
- 家庭学習において、自主的に予習・復習、調べ学習等に取り組む児童の割合が低い。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話の大まかな内容を捉えること。 ●条件に沿った文章を書くこと。 ●言葉や文についての知識・技能。	□学校図書館を活用しながら、読書習慣を身に付ける。 □聞かれていることに対して、根拠を明確にして考えを書く機会を増やし、それを伝える時間を確保する。
	5年	○漢字の読み、ことわざ、漢字辞典の使い方。 ●人物像を読み取る力。 ●文章の形式(段落)を意識して書くこと。	□教科書の叙述を根拠にした人物像の読み取りを積み重ねていく。 □書く内容についての理由や根拠を明確にするとともに、段落の構成を意識した書く活動の機会を増やす。
	6年	○情報の扱い方に関する事項(原因と結果などの情報と情報の関係について)。 ●話の内容を捉えたり、自分の考えをまとめて書いたりすること。 ●読み取る力(目的を意識したり、中心となる語や文をみつけて要約したりすること)。	□文を読み取るとともに、常に自分の考えをもち、筆者の考えと比較する。また、自分の考えを書く際には、相手意識や目的意識を重視し、簡潔に書くように意識させていく。 □文や文章の中心となる言葉を見つける活動の際には、事例や筆者の主張と関連付けて考えることを意識づけていく。
算数	4年	○大きい数、小数、分数、かけ算の筆算など、基礎的な計算。 ●波及的な繰り下がりのある引き算(804-316)、位をそろえてから計算する引き算、あまりのある割り算。 ●長さ・重さに関する事項。	□授業の中で、計画的に計算問題に取り組む時間を確保し、基礎、基本の定着を図る。 □長さや重さなどの単元では、算数的活動を意図的に取り入れることで単位について実感としてとらえられるようにする。
	5年	○基礎的な計算(具体数のあるもの) ●図形、変換、関係性、読み取り(文章題)。	□具体物を用いたり、生活場面と関連させたりすることで、具体的な場面を想像して取り組めるようにする。 □学習した日のうちに家庭学習でも取り組めるようにするなど、児童の理解度に応じ、反復して確認する機会を設けるようにする。
	6年	○変化と関係や数と計算の基本的な計算。 ●2段階立式する文章問題や図、グラフなど、問題を正確に読み取って理解すること。 ●三角形の角や求積に関する事項。	□問題の読み取りに慣れる。長い文章を読む習慣をつけるとともに大切な数値や語を見つけた活動を繰り返す。 □グラフや表の読み取りを社会科の資料の読み取りと合わせて理解を深めていく。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業では、先生や友達の話をしっかり聞いている児童の割合が高い。 ○話し合いで相手の話をしっかり聞き取っている児童の割合が高い。 ●話し合いの中で自分の考えを進んで話そうとする児童の割合が低い。 ●自己肯定感に関わる質問について、全国を下回る。	□教材の提示や題材などを工夫して、児童が話し合いたいと思える授業を展開していく。 □ペア対話やグループ対話を取り入れながら、話し合いの場を充実させる。 □自己肯定感を高めるような声掛けをする。 □縦割り班活動や発表をできる場所を増やし、子ども自身が認められる機会を増やす。(他者から認められる経験)
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○勉強にパソコンを利用している児童が全国平均より多い。 ●新聞記事を読む、勉強に図書館を利用する、勉強に辞書を利用する、本(まんがや雑誌をふくまない)を読んでいる児童の割合が全国平均を下回る。 ●進んで読書をする児童の割合が低く、その他のメディア接触の時間が長い。 ●全体の8割以上が自分から計画を立てて、家庭学習ができているが、全国平均の家庭学習の時間を下回る。	□単元の題材に応じた図書館利用を計画的に実施していく。 □辞書の本バックに入れておくなど、困ったらすぐに調べることができるようにし、辞書を使う習慣を身につけさせる。 □自主学習メニューと出し方を再検討し、児童への伝え方を工夫する。 □予習復習などを含めた自主学習の工夫。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家の人たちへの挨拶は全国平均水準である。 ○正義感が強く、ほぼ全員が「人の役に立つ人間になりたい」と思っている。 ●家の手伝いや地域の行事への参加は全国平均を下回る。 ●地域のことは好きだが、地域行事に参加した児童の割合が低い。 ●自分で起床時間、就寝時間、メディアの時間を決めること。	□夏休みなどの長期休みの前などにお手伝いの大切さを伝えていく。 □高学年については、家庭科とも連携してお手伝いを推進していく。 □社会科や生活科の学習を通して、地域行事の大切さや素晴らしさを伝える。また、積極的にかかわろうとする態度を育てる。 □生活リズムを整えるための家庭との連携。

# 令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出東小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全国・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって、下回るもの、同程度のもの、上回るものがある。4年生は、算数が市平均正答率をやや上回り、国語もやや上回っていた。5年生は、国語・算数ともに市平均正答率を大きく下回っていた。6年生は、国語が全国平均正答率を大きく上回り、算数が上回っていた。

【国語】○学習した漢字を正しく使い、書いたり読んだりすること。

●書くことに課題がある。条件に合わせて必要な情報を用いて文章を書き、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【算数】○どの学年も意欲をもって学習に取り組むこと。

●図形を構成する要素に着目して問題を解くこと。

●数の仕組みなどの意味を理解すること。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字を正しく読むこと。 ○漢字のへんやつくりを理解すること。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える事例との関係を明確にして書くこと。(無解答が多い。)	□自学で新聞要約などに取り組み、書き表すポイントを知ったり、書き慣れたりする。 □条件を付けて、作文を書く機会を増やす。
	5年	○ことわざの意味、漢字辞典の使い方を理解すること。 ●情報と情報との関係について理解し、書き表し方を工夫して書くこと。(無解答が多い。) ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語を見つけて要約して読み取ること。	□条件作文、新聞要約などで書く機会を多くとり、書き表すポイントを知ったり、書き慣れたりする。 □クロスワードや言葉遊びなど、楽しく取り組むことができる活動内容を取り入れ、語彙力を高める。
	6年	○言葉の特徴や使い方に関する知識や技能。 ○文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること。 ●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ●話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること。	□他教科等と関連しながら、それぞれの図表、グラフの特徴や優れている点などを知らせ、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためにはどのような図表やグラフを用いるとよいかを児童が考える場面を設定する。 □話を聞いていて、分からない点や確かめたい点などが出てきた時に質問できるように、聞く際の視点に着目する。
算数	4年	○「図形」、「データ活用」の領域では、全国平均正答率を大きく上回っている。 ○無解答の割合が低い。 ●たし算(くり上がり3回)引き算(波及的繰り下がり 804-316)の計算。 ●かけ算の工夫(分配法則)の仕組みを理解すること。 ●メートル法の仕組みを理解すること。	□正確さ、速さを意識して、四則計算の練習を継続する。 □量感をもって単位変換できるよう、実生活の単位について考えさせる場面を設ける。 □考えや根拠を自分の言葉で説明する場面を設定し、考えを表出できるようにする。話すだけでなく、文章にする活動も行う。
	5年	○グループの友達と協力しながら課題に取り組むことができる。 ●伴って変わる2つの数量の関係を○や□を使って表すこと。 ●小数の計算をすること。 ●図形の領域について理解したり、作図したりすること。	□単元で学習したことを掲示し、いつでも既習事項を確認できるようにする。 □計算や各領域における知識について繰り返し練習したり、該当の単元や領域に関連する事項の復習をしたりする。
	6年	○「数と計算」「データの活用」の領域では、全国平均正答率を大きく上回っている。 ○示された表から必要な情報を読み取ること。 ○台形の意味や性質について理解すること。 ●三角形の意味や性質の理解、底辺と面積の関係から大小を判断すること。 ●(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に各段階の商の意味を理解すること。	□目的の図形をつくるために、折る、重ねる、開くなど、どんな操作をすればよいか見通しを立ててから、つくる活動を行う。 □三角形の底辺や高さや面積の関係を基に、面積の大小を判断する活動を行う。 □筆算を具体物や図に表し、式や商の意味と関連付けて考察する活動を行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○先生の話をしっかり聞き、きちんとノートをとること。 ○友達と話し合うとき、自分の考えを進んで話したり、友達の話や意見を最後まで聞いたりすること。 ●新聞記事などを、自分の考えと比べながら読むこと。 ●自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように話すこと。 ●分からないことを質問すること。	□自分の考えと比較しながら読む習慣を身に付けさせるために、ゲーム的要素や新聞を活用した学習を取り入れる。 □自分の考えを書いたり、話したりする機会を多くもつ。(プレゼンテーション的な活動も含む) □調べたことや考えたことを説明する場面を積極的に設けて、説明する力を高める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとしていること。 ●勉強に図書館や辞書を利用すること。 ●進んで読書に取り組むこと。 ●休日の学習時間が平日の学習時間に比べ、少ないこと。 ●クロスワードなど言葉を使ったパズルや、計算や図形を使ったパズルなどで遊ぶことが少ない。	□授業で積極的に新聞や辞書を活用する。 □授業で積極的に学校図書館を利用したり、読書に興味をもつ活動を取り入れたりしながら、読書の習慣をつける。 □家庭でも読書の習慣がつかうように、学校図書貸し出しを勧め、家庭で読書の時間をもてるようにする。 □自学の内容がマンネリ化しないようにする。(クロスワードや新聞記事を読んで自分の考えを書くなど)
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校では、先生に挨拶すること。 ○朝食や夕食をきちんと食べていること。 ○出かけるときは、家の人に行き先を言っていること。 ○勉強する時は、集中して勉強していること。 ●学校の決まりや家の人と決めた約束や決まりを守ること。 ●新聞記事を読むこと。 ●時間を決めて行動すること。	□家庭・地域へ校内の取組を情報発信し、めざす姿の共通理解を図る。 □「家庭学習のしおり」を配付し、めあてとする家庭学習の時間や内容を共有する。 □年2回の「家庭学習調査」で、児童の家庭学習状況を把握し、成果や課題を家庭と学校が共通認識した上で家庭学習に取り組む。 □毎学期一回実施する「メディア・生活リズムチェックカード」で子どもの生活習慣について把握し、学級活動等で取組の評価や今後の取組について指導する。